

PLAYS 600

取扱説明書

このたびは、シマノ PLAYS 600 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、リール同様大切に保存していただきますようお願い申し上げます。

安全上のご注意	2	S A-RB について	32
特長	8	船べり自動停止について	32
デジタルカウンターの各部の名称	10	アラーム（船べり）	33
各部の名称	12	棚または底の水深をメモリーする方法	34
電源とケーブルについて	14	棚アラーム	35
学習方法	15	2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード	36
学習方法（全体の流れ）	16	上からモードの実釣編	37
学習方法 1. PE ライン（メーターごとのマーカーのある糸）を巻かれる場合（学習モード）	18	底からモードの実釣編	38
学習方法 2. フロロラインなどマーカーのない糸を巻かれる場合（学習モード）	20	2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード	39
学習方法 3. 下巻きをしてラインを巻かれる場合（下巻モード）	22	お取り扱い上の注意	42
糸巻学習後の手順	26	仕様	46
色々なテクニック	28	故障かな？と思われたときは	47
0（ゼロ）セットの設定	29	製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内	48
高切れの補正	31	サービスネット	50

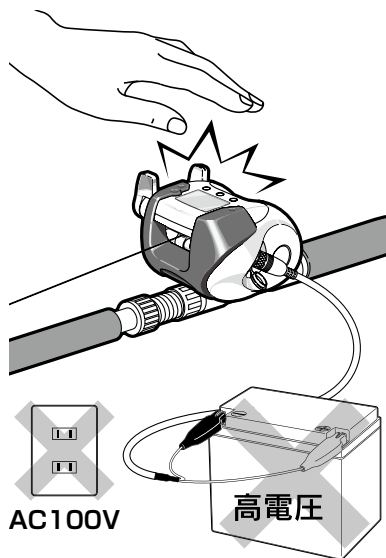
ご使用前に必ずお読みください。

警告



高温注意

- バッテリー、船電源の所定電圧（DC 12～14.8ボルト）以外を使用しないでください。所定の電圧以外を使用すると、電動リールが発熱し、カウンター部の電子部品の破損や、手を火傷する恐れがあります。
- 家庭用交流電源につながないでください。回路が破損し発火発煙の恐れがあります。
- 電源コネクターやワニ口クリップに異常な発熱があった場合は、使用を中止してください。



AC100V

高電圧

警告




警告

- 電動リールのブレーカーが何度も作動するような場合は、対象魚/シカケの負荷に対して電動リールの仕様が適合していないと考えられます。そのままご使用になれますと、モーターやカウンターユニットが異常な発熱を起こし、焼損する場合があります。この場合は電動リールの番手を一つ上げてご使用ください。




警告

- バッテリーマーク（**B**または) が点灯、点滅している場合はバッテリー電圧が低下しており、電動リールの性能を十分に発揮できないだけでなく、モーター、カウンターユニットに負荷が加わり故障の原因となりますので、使用を中止し十分に充電したバッテリーに交換してご使用ください。



警告

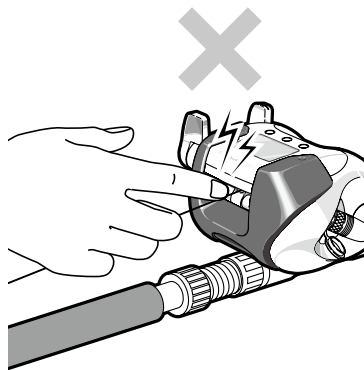
- 船電源、鉛バッテリー等をご使用になる場合は低電圧でご使用にならないようお願いします。デジタルカウンター表示部にバッテリーマーク（**B**または) が点灯、点滅している状態で、高負荷巻き上げ（大電流が流れる）を行いますと、デジタルカウンター内部の電子部品が破損し、レンズが飛び出る場合があります。

警告



指をはさまれない よう注意

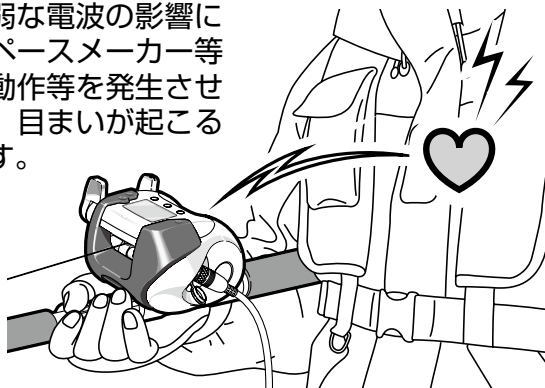
- 糸をリードするレベルワインドの所に指を近づけて、釣りをしないでください。指をはさまれて、怪我をする恐れがあります。指をはさんだ場合は電源をOFFにし、電動リールを解体してください。
- ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをする恐れがあります。



- 電動リールの微弱な電波の影響により、補聴器・ペースメーカー等の医療機器に誤動作等を発生させて使用者に動悸、目まいが起こる場合がございます。



警告

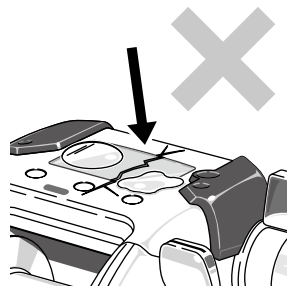


警告



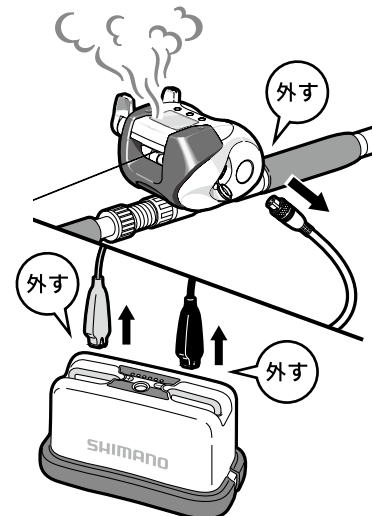
警告

- カウンターレンズ内側に水滴や曇りが見られた場合は直ぐにケーブルを外してください。そのまま使い続けると、誤動作し穂先を折ったり、破片で怪我をする恐れがあります。
- 電動カウンターのレンズやケースにヒビ割れ、クラックがある場合は使用を中止してください。水が内部に侵入するとショートして回路が破損し、モーター制御が出来なくなる恐れがあります。



警告

- 電動リールやカウンター表示部から焦げ付いた匂いや煙、異常な発熱が出た場合は直ぐに使用を中止してください。そのまま使い続けると発火発煙の恐れがあります。
- 巻き上げが止まらない場合は直ちに電源コネクターを外すか、バッテリーからワニ口クリップを外してください。

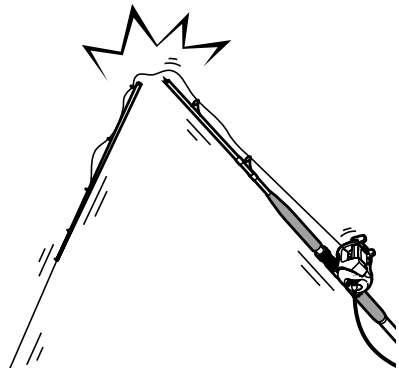
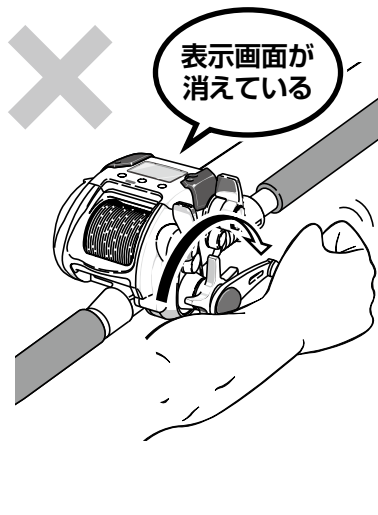


⚠ 注意



注意

- 電動リールをご使用中、表示画面が消えた時にリールのハンドルを使用し巻き上げると、正常にラインのカウントが出来ません。(※ラインとカウント表示に誤差が発生します。)そして表示画面が復帰後、電動リールのモーターで巻き上げると船べり停止が出来ず、仕掛け巻き込みの原因となります。場合によっては穂先を破損する可能性がありますので、表示画面が消えた場合はその原因を取り除き、表示画面が復帰した後でライン回収を行ってください。



⚠ 注意



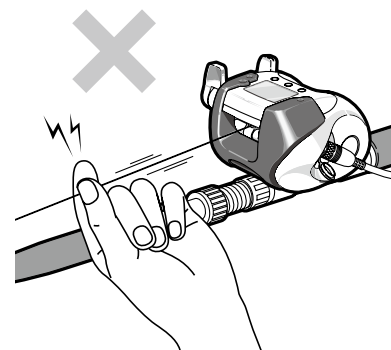
注意

- メッキや塗装等の表面処理が剥がれたり、強い衝撃等により素材の表面が鋭利になった場合には、その部分に触れないでください。けがをする恐れがあります。



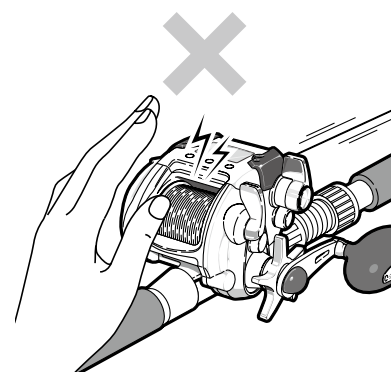
指をはさまれないよう注意

- 糸が勢いよく出ている時、又は、糸を巻いている時に糸を掴んだりしないでください。糸で指を切ったり切断する恐れがあります。



回転物注意

- 回転しているスプールに触れないでください。けがをする恐れがあります。

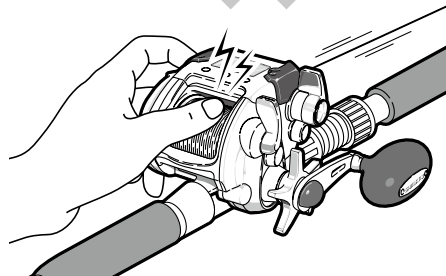


⚠ 注意



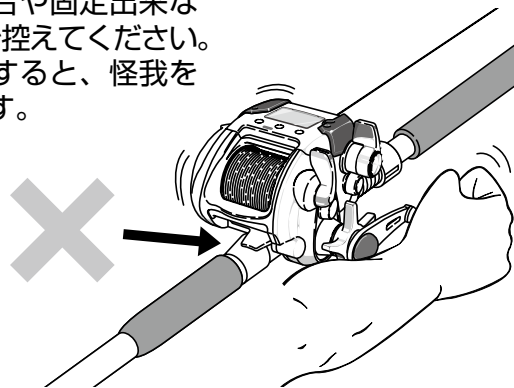
回転物注意

- 指を本体とスプール等の回転部に差し込まないでください。指を怪我したり、切断する恐れがあります。



注意

- 電動リールはリールシートにしっかりと固定してご使用ください。ガタ付きがある場合や固定出来ない場合は、ご使用を控えてください。釣行中に外れたりすると、怪我を負う恐れがあります。

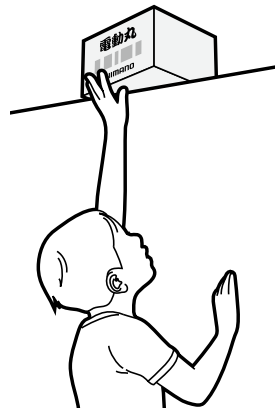


⚠ 注意



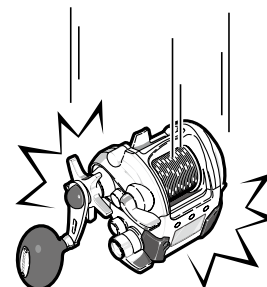
注意

- 幼児の手の届く所では、保管、使用しないでください。



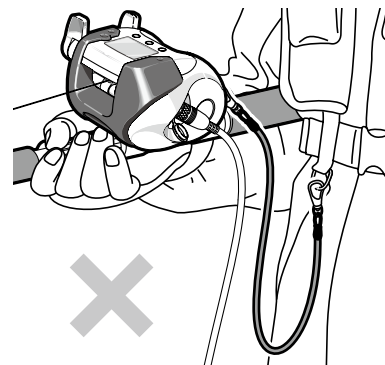
注意

- 落下等の衝撃によりカウンターが破損し、誤動作する恐れがあります。強い衝撃が加わらないようにしてください。



注意

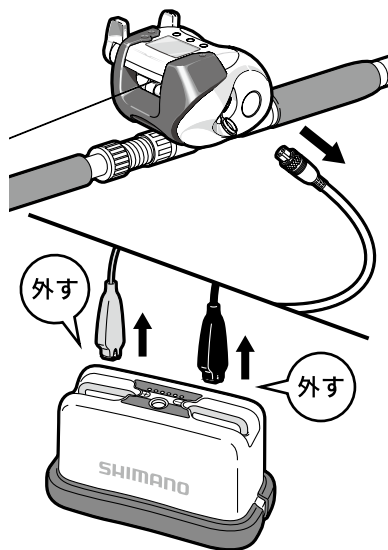
- ケーブル等を身体に巻きつけたりしないでください。魚のヒキによっては海に落ちる可能性があります。



⚠ 注意

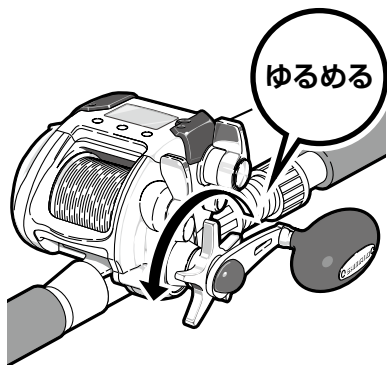
⚠ 注意

- 釣行後に電動リールをメンテナンスをする場合は、必ずケーブルをバッテリーから外して行ってください。急にスプールが回りだしたりすると、怪我や電動リールの破損の恐れがあります。



⚠ 注意

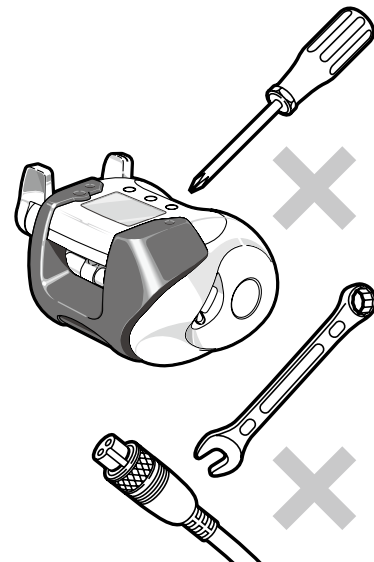
- 電源をつなぐ前に、必ずドラグを十分にゆるめてから接続してください。故障時にモーターが回り放しになり、仕掛けを巻き込み、竿を破損する恐れがあります。



⚠ 注意

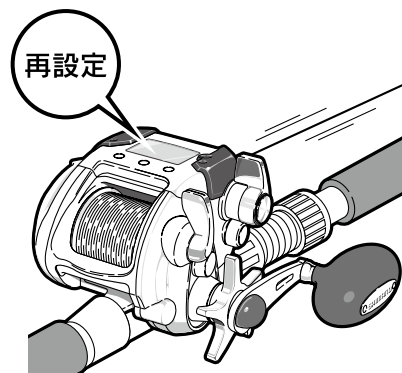
⊘ 分解禁止

- 本体を改造したりしないでください。電動リールの性能を損ない、安全機能が働かなくなり怪我をしたりする恐れがあります。
- ケーブルの改造はしないでください。電動リールの性能を損なったり、発熱や発火する恐れがあります。



⚠ 注意

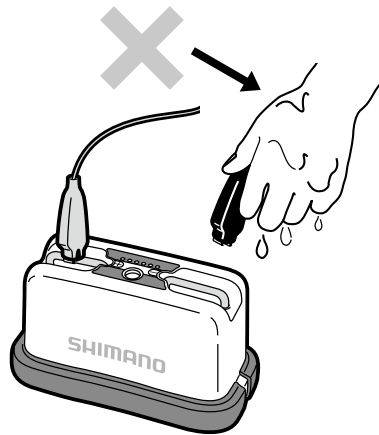
- 船べり停止位置は巻き上げ張力等によってズれる事があります。停止位置がズれてきた場合は「0セット」して補正してください。停止位置がズれると竿の穂先を折ったりする恐れがあります。



⚠ 注意

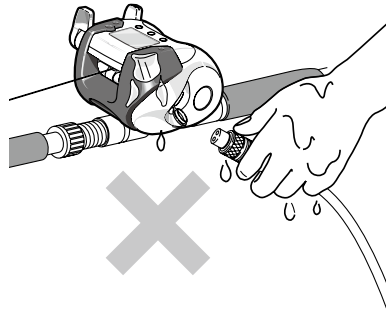
⚠ 注意

- 濡れた手でケーブルのワニ口クリップの金属部やバッテリー、船電源の端子を触らないでください。感電する恐れがあります。



⚠ 注意

- ケーブルを電動リールに接続する時は、端子部が濡れていない事を確認して接続してください。濡れていると海水によりショートと発火、発煙し火傷する恐れがあります。



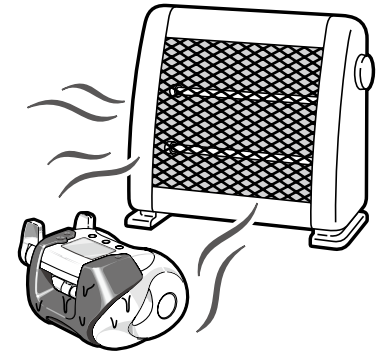
注意

- 根掛かりした時は竿をあおらず、糸をロッドキーパーや、しっかりとした船べりに巻きつけ、船で糸を切るようにしてください。

⚠ 注意

⚠ 注意

- メンテナンス後にドライヤーや発熱器具を使っての乾燥は止めてください。樹脂が変形したりする恐れがあります。



モーターの誤作動についてのご注意

- 本電動リール表示部は10mの耐水圧性能により防水が確保されています。しかし、落下等の強い衝撃により表示部に破損やクラックが起こり内部に海水が浸入した場合、モーター制御が出来なくなる事があります。突然、糸を巻き上げる等の誤作動により怪我をする可能性がありますので、表示部のクラックや破損を発見した場合は、ケーブルを抜いて即座に使用を中止し、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。またお近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄の営業所へお問合せください。
- 本電動リールの使用電源保証範囲はDC12～14.8Vまでです。これより大きな電源や家庭用交流電源等を使用した場合、表示部の電子回路が破損しモーター制御が出来なくなります。また、発煙発火の可能性もありますので、必ず使用電源をご確認の上、使用してください。



S A-RB

錆、塩噛みに強いボールベアリング…

シールドタイプ S A-RB 内蔵。

従来の A-RB (アンチラストベアリング) の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させた S A-RB を適材適所に配置したことにより更なるスプールフリーが実現! A-RB 処理による防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による "塩噛み" をも減少させています。

P32 参照



2種類の巻き上げ方法を状況に応じて選択可能な…

「楽楽モード」「速度一定モード」切り替え。

P39 ~ 40 参照

巻き上げパワーが一定の「楽楽モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。



巻き上げフィーリング抜群の…

スーパーストッパー II

アソビがないのでシャクリに威力を発揮します。



このクラスストップレベルの…

軽量コンパクト化を実現。



さらに磨きのかかった…

ハイスピード&ハイパワーを装備。



軽いオモリでも底取り簡単…

スーパーフリースプール。

P13 参照

クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。



より正確に何回でも狙った水深にシカケを落とす…

0 (ゼロ) セット。

P29 ~ 30 参照

シカケが水面にあるときを0メートルとして設定できますから、狙った水深に、より正確にシカケを投入できます。



竿を立てたときにシカケが手元に戻ってくる…

船べり自動停止。

P32 ~ 33 参照

船べり停止位置が自動的に設定されますから、船べり停止後、竿を立てるだけでシカケが手元に戻ります。



高切れをワンタッチで修正する…

高切れ補正。

P31 参照

高切れした場合は、再度シカケを結びシカケを水面に合わせて0セットボタンを押してください。カウンターが修正されます。



レバー操作で巻き上げ速度と楽楽設定値をらくらく調整…


テクニカルレバー。

P12・39 参照



プログラマ不要の新 SLS 方式…


SLSII (シマノ・ラインプログラム・システム 2) 搭載。

より正確な棚取りが可能です。  P15 ~ 25 参照



メモリーした水深をメモ欄に表示…

棚メモ


 P34 ~ 35 参照

棚または底の水深をメモリーして表示しておけます。底からモード時はメモ位置からの差をメモ欄に表示します。



メモ水深の表示方法を選択できる…

「上からモード」「底からモード」 切り替え

 P36 ~ 38 参照

釣場、釣り方、対象魚など場合に応じて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えられます。

上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置からの差を表示します。

デジタルカウンターの各部の名称

◎電源の電圧不足のお知らせ

電圧が不足した場合に**B**が点灯します。

◎底からモード

底からモード時に「BTM」が点灯します。
点灯がない時は上からモードです。

■R/S / TOP/BTM (楽・速 / 上・底) ボタン

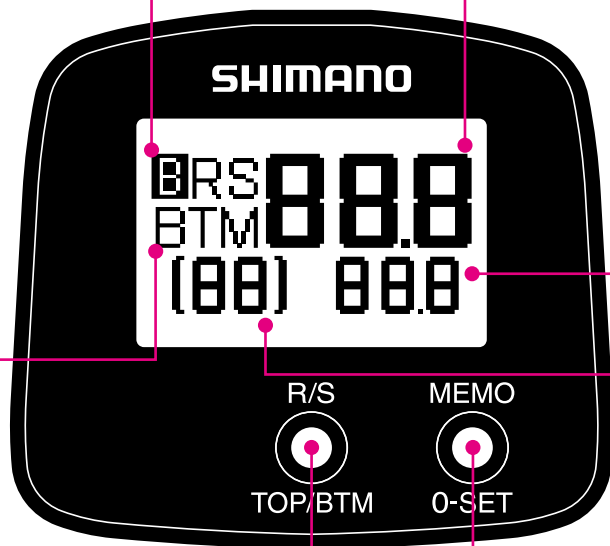


速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。
巻き上げ中の操作も可能です。
現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。

楽楽モード：バックライト「緑」（「R」点灯）
速度一定モード：バックライト「赤」（「S」点灯）



3秒以上押しすごとに上からモードと底からモードの切り替えができます。
モーターONの場合は無効となります。



◎現在の水深

水面からの水深を表示します。（底からモード時は底からの水深を表示します。）
*水深は10cm単位です。（100m以上は下図のように1m単位になります。）

99.9 → 100

◎棚メモ

上からモード時はメモした水深を、底からモード時はメモ位置からの差を表示します。

◎テクニカルレバーの設定値

レバー操作で巻き上げパワーまたはスピードをらくらく調整。

■MEMO / 0-SET (メモ / 0セット) ボタン



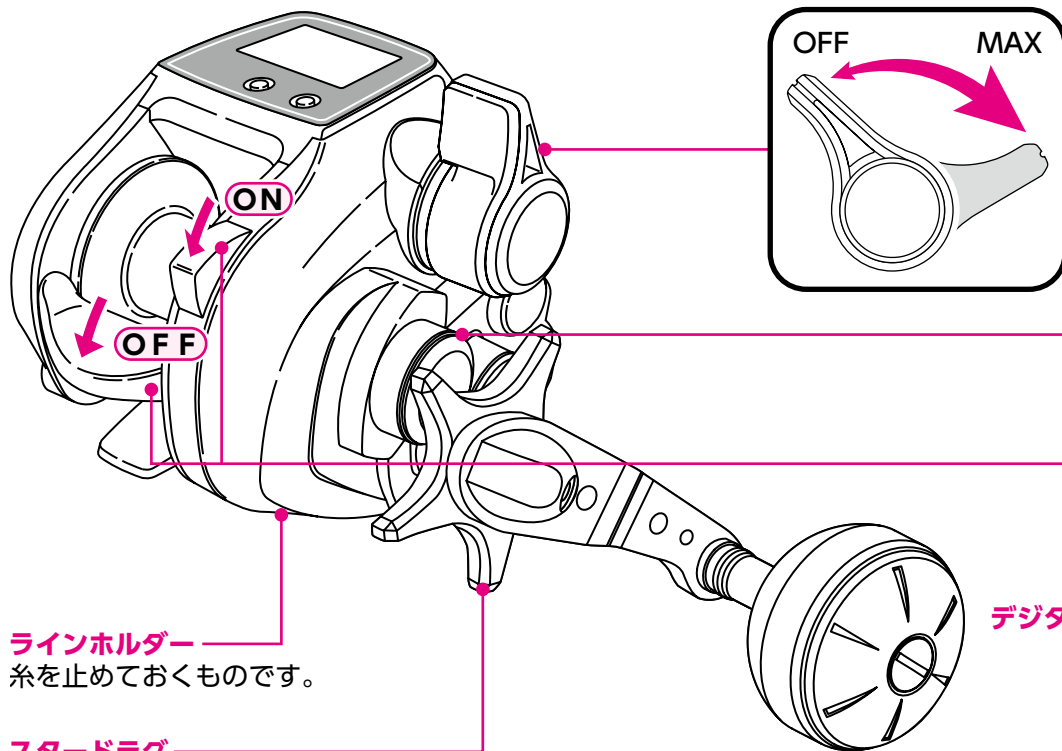
棚をメモします。
選択しているモードにより、表示される内容は異なります。



3秒以上押しすと0セットします。
シカケを水面に合わせて0セットしてください。
モーターON時は0セットできません。

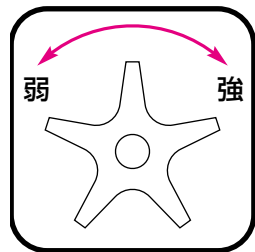
●図は説明のために液晶を全部点灯させています。

各部の名称



ラインホルダー
糸を止めておくものです。

スタードラグ
魚が強く引いた時、ハリス切れをおこさないように糸を送り出す力を調整します。



レベルwind
※巻上げ時に指をはさまないように注意してください。

セーフティレベルwindカバー

電源コネクター
※ご使用時以外はコネクターキャップを取り付けてください。

テクニカルレバー
巻き上げパワーまたはスピードを瞬時に調整することができます。
※船べり停止後等で、いったん停止後の再始動時には一度OFFに戻してから始動させます。カウンター1.0m以下では安全のためレバーを動かしての巻き上げはできないようになっております。



メカニカルブレーキノブ
スプールの回転にブレーキをかけてシカケをおろす時のバックラッシュを防止します。

クイックリターンクラッチ
(次ページをご覧ください。)

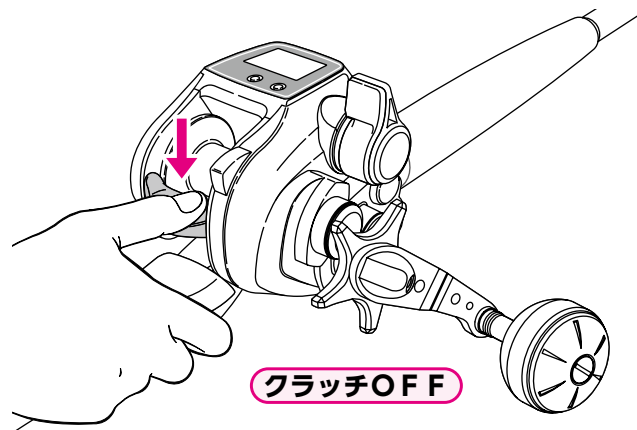
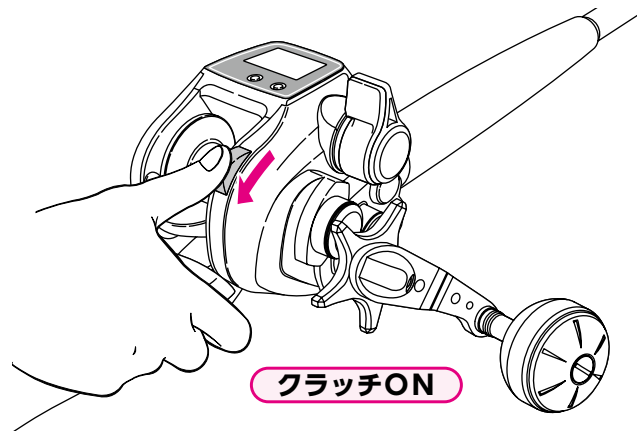
デジタルカウンター

クイックリターンクラッチ

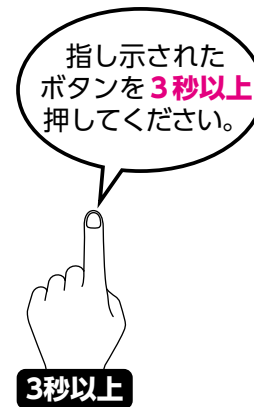
クラッチOFFの時レバーを押すと、クラッチがONになります。ロッドを持っている手で素早く操作できます。ハンドル正転または手で戻してもONできます。

ON : シカケの巻き上げ

OFF : スプールをフリーにしてシカケをおろします。



本文の説明中に次のようなマークが出てきた場合は…



ご注意：

本文の説明中に出てくるカウンター内の数値・設定などは例として表示している場合があります。全く同じ表示になるわけではありません。

電源とケーブルについて

1 お取り扱い上の注意

電源について

公称電圧が12Vから14.8V(リチウムイオンバッテリーなど)までのものをご使用ください。リチウムイオンバッテリーを使用する際は、シマノ 電力丸をご使用ください。他社メーカーのバッテリーを使用された場合、リールおよびバッテリーが破損する場合があります。指定外の電源(たとえば家庭用の交流100V、船装備の高電圧など)ではご使用できません。バッテリーチャージャーなどは絶対に使わないでください。

●船に備え付けの電源を利用される時は、電圧が直流(DC)12Vから14.8Vであることをご確認ください。(船のバッテリーをご使用になる場合は、12Vのバッテリーか、DC-DCコンバータにより24Vから12Vに変換されたものに限りです。)また、端子がサビていたり、電圧が安定しておりませんと、リールが正常に作動しない場合があります。

- 十分に充電したバッテリーをご使用ください。
- バッテリーは長期間使用されますと、次第に充電できる容量が少なくなります。その場合は、新しいバッテリーをお求めください。
- AC電源は絶対通電させないでください。カウンター部の故障となります。

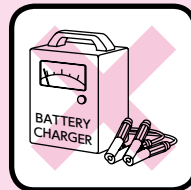
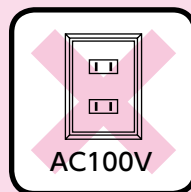
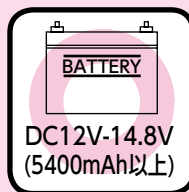
ケーブルについて

電源との接続は、必ずシマノ純正ケーブルを用いてください。ケーブルは消耗品です。使用頻度にもよりますが、2~3年で交換することをお勧めします。

ご注意:純正以外のケーブルを使用されると、リールが正常に作動しない場合があります。また、ケーブルは乱暴に扱わないでください。踏んだり、折り曲げたりすると故障の原因となります。

電源ケーブルのワニ口クリップ部はモーターの負荷によって大電流が流れると発熱する場合があります。電源端子(バッテリー端子)とワニ口をしっかり挟み込んで使用してください。

本製品のケーブルは2芯タイプとなっています。6芯タイプのケーブルは使用できません。釣行時には持参するケーブルのご確認をお願いします。



本製品はハイスピード、ハイパワーの高性能機種となっております。ご使用になる際は弊社、電力丸をご使用になるようお勧めいたします。

2 バッテリーとの接続方法

1 バッテリーに付属のケーブルを接続してください。

赤クリップを(+側)、黒クリップを(-側)につないでください。

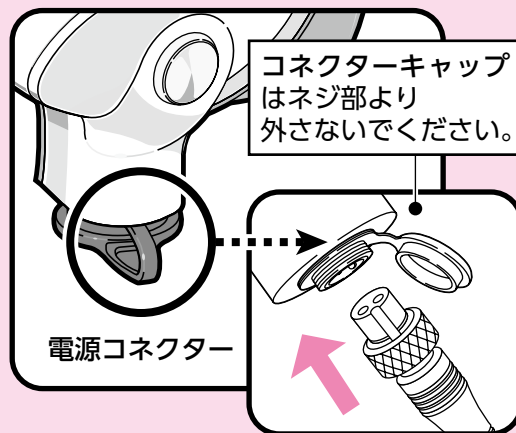
※(+側、-)側を逆に接続した場合、リールが破損する場合があります。

2 それから、リールとケーブルを接続します。

ケーブルのプラグの凹部と、リールの電源のコネクターの凸部を合わせ、奥まで差し込んで、ネジを締めてください。

※ボタンを押しながら電源を接続しないでください。

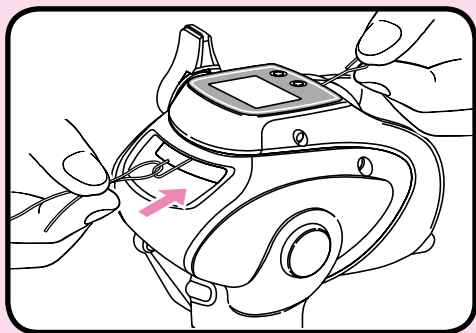
※若干のガタが出るものがありますが、ご使用上問題はありません。



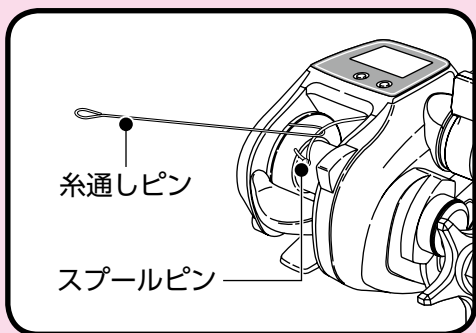
学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)

糸をセットします。

- 1** 糸をレベルワインドに通します。
糸を通すときは、付属の糸通しピンを使用することをおすすめします。



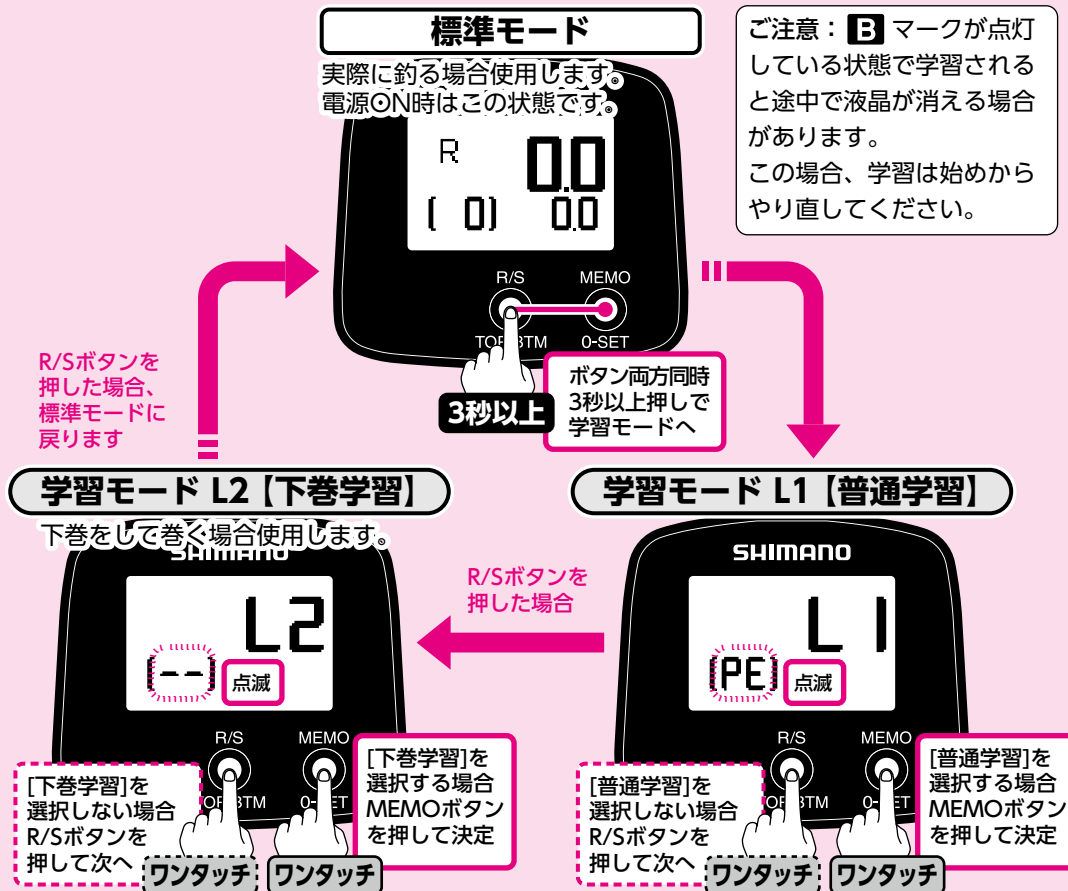
- 2** スプールピンに糸を結んでください。



学習方法の選択

まず下記の操作で標準モードから学習モードに入り、使用する糸の種類に合った学習方法を選択します。それぞれの学習方法については次ページからの説明をご覧ください。

※電源をつないでないとこの操作は行えません。
※カウント値が6 m以下で操作してください。6.1m 以上の時はいったん0セットしてください。



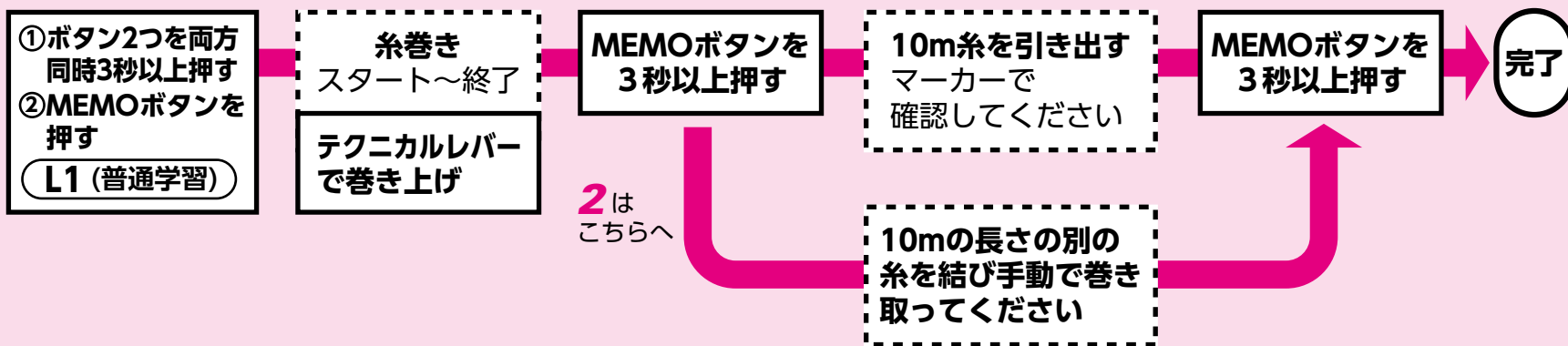


糸を巻く前にどのようにするのか、学習の全体の流れをつかんでください。

大きくは下図の **1** ~ **3** までの3通りの学習方法があります。よりくわしい説明はそれぞれのページを参照してください。

下巻なしでフルに巻くなら…

1 PEライン (メーターごとのマーカのある糸) を巻かれる場合 (18~19ページ参照)

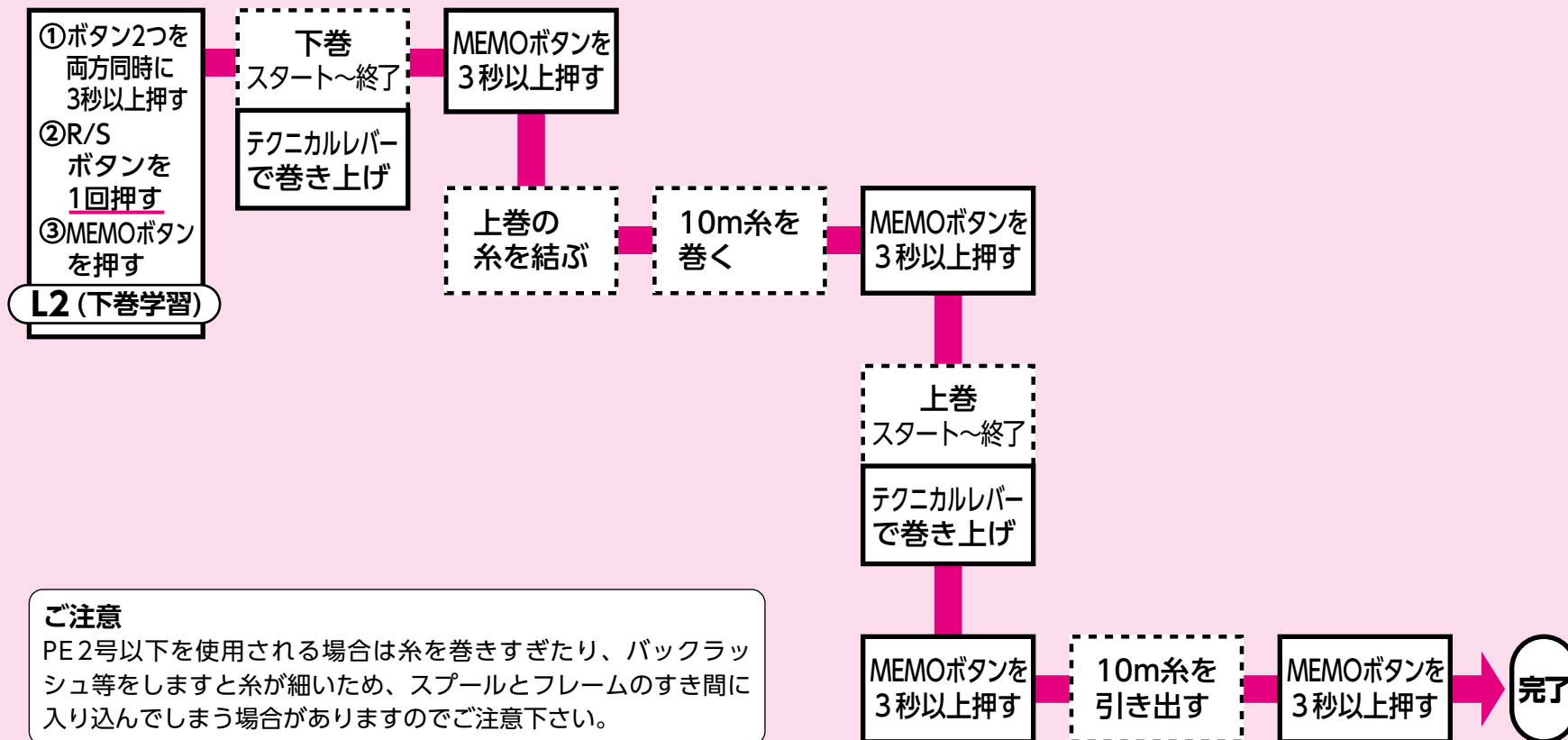


2 フロロラインなどマーカのない糸を 巻かれる場合 (20~21ページ参照)

下巻をして巻くなら…

3 下巻きをしてラインを巻かれる場合 (22~25ページ参照)

※ PEライン2号200m/3号100mを巻かれる場合：
小箱から切り取ったゲージを使用してください。



ご注意

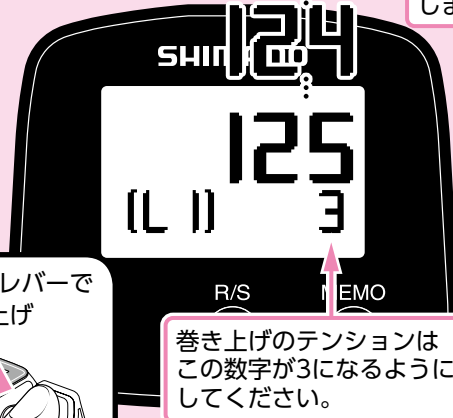
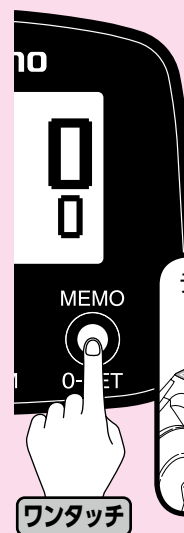
PE2号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますのでご注意ください。

学習方法 (使用するラインの実測値をリールに記憶させます。)



1 PEライン (メーターごとのマーカのある糸) を巻かれる場合 → L1 [普通学習] を使用します。

フロロ糸など (メーターのマーカのない糸) を巻かれる場合は 20～21 ページをごらんください。
下巻を行っての学習も可能です。(学習モード [下巻学習] ・ 22～25 ページ参照)



スピールの回転数に応じて変化します。

巻き上げのテンションはこの数字が3になるようにしてください。

1 カウント値が 6 m 以下で操作します。
6.1m 以上の時は 0 セット (29～30 ページ参照) しておきます。
クラッチを ON にしてください。
そして、電源の接続を確認してください。
デジタル表示は図のようになります。
(標準モードの状態です。)

2 2つのボタンを両方同時に 3 秒以上押すと学習モードに入ります。
[L1] (普通学習) が点灯します。
MEMO ボタンを押し、[L1] (普通学習) を決定します。
[L1] が [0] に変わります。
(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは 15 ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

3 テクニカルレバーで糸を巻いてください。
スピールの回転数に比例した数字が表示されます。
巻き上げのテンションは、画面右下の数字が 3 になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力 (糸のテンション) を数字で表示します。数字 = kg ではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。
テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



4 糸を完全に巻き終えたら、MEMO ボタンを3秒以上押してください。

「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

5 スプールの回転数が画面右上に表示されます。(□部分)

学習を終了するため、MEMO ボタンを3秒以上押してください。

「ピピッ」のアラームが鳴ります。

※各入力途中でR/S ボタンを誤って押ししてしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

6 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)

※誤差とは、学習後1投目の誤差です。

7 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

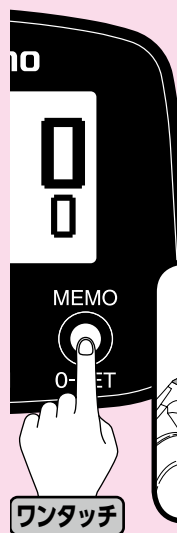


2 フロロラインなどマーカのない糸を巻かれる場合

→ L1 [普通学習] を使用します。



1 カウント値が 6 m 以下で操作します。6.1m 以上の時は 0 セット (29 ~ 30 ページ参照) しておきます。クラッチを ON にしてください。そして、電源の接続を確認してください。2つのボタンを両方同時に 3 秒以上押しと学習モードに入ります。「L1」(普通学習) が点灯します。MEMO ボタンを押し、「L1」(普通学習) を決定します。「L1」が「0」に変わります。(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは 15 ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)



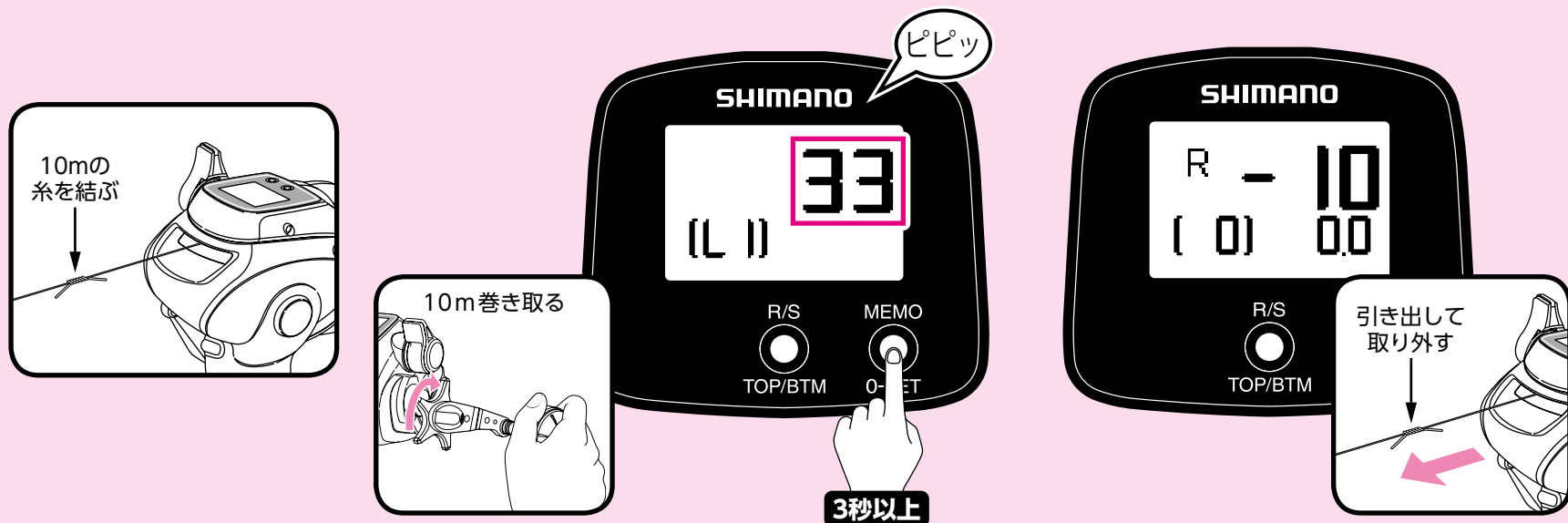
2 テクニカルレバーで糸を巻いてください。スプールの回転数に比例した数字が表示されます。巻き上げのテンションは、画面右下の数字が 1 になるようにしてください。この数字はリールが巻き上げている力(糸のテンション)を数字で表示します。数字 = kg ではありません。また、楽楽モード時の数値とも異なります。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。



3 糸を完全に巻き終えたら、MEMO ボタンを 3 秒以上押してください。「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

ご注意：フロロラインなどを巻かれる際は、ラインが膨らまない程度にテンションをかけてください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 4** 巻き取った糸の先に長さ10mの別の糸を結びつけます。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

- 5** 結びつけた糸を巻き取ります。スプールの回転数に比例した数字が画面右上に表示されます。(□部分) 学習を終了するため、MEMO ボタンを3秒以上押ししてください。「ピピッ」のアラームが鳴ります。 ※各入力途中でR/S ボタンを誤って押ししてしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。もう一度最初からやり直してください。

- 6** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。) ※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
- 7** 結びつけた糸を引き出して、取りはずしてください。

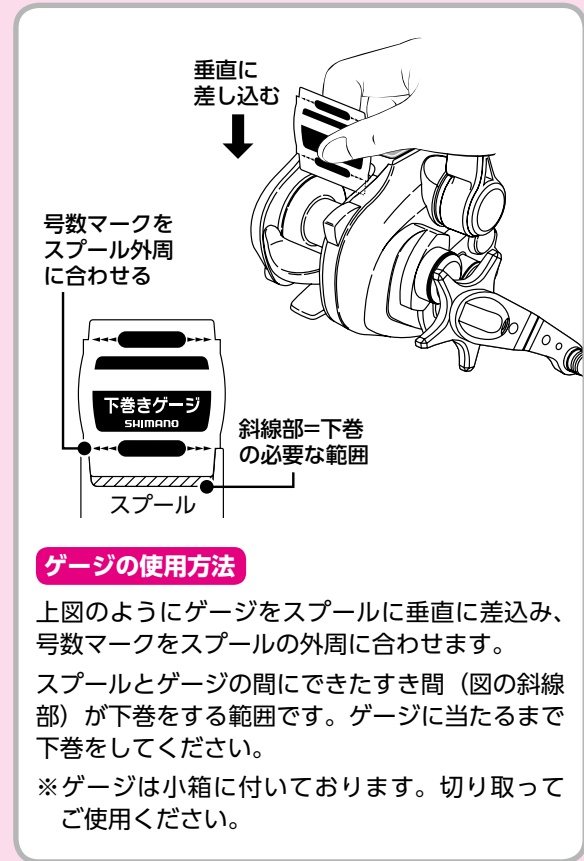
ご注意：フロロラインは、巻き上げ繰り返しのテンション変化にて誤差が大きく、3%以上あります。使用される際は、穂先の巻き込み等に注意してください。



3 下巻きをしてラインを巻かれる場合 → L2【下巻学習】を使用します。



※ PEライン 2号 200m/3号 100m を巻かれる場合：
小箱から切り取ったゲージを使用してください。



1 カウント値が6m以下で操作します。
6.1m以上の時は0セット(29～30ページ参照)しておきます。2つのボタンを両方向同時に3秒以上押して学習モードに入り、R/Sボタンを1回押してください。「L2」(下巻学習)が点灯します。MEMOボタンを押し、「L2」(下巻学習)を決定します。「L2」が「0」に変わります。(学習モード内での学習方法の選択について、詳しくは15ページ「学習方法の選択」をご参照ください。)

2 右の要領で下巻を行います。
ハンドルかテクニカルレバーで糸を巻いてください。巻き上げのテンションは、画面右下の数字が3になるようにしてください。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

ゲージの使用法

上図のようにゲージをスプールに垂直に差し込み、号数マークをスプールの外周に合わせます。
スプールとゲージの間にできたすき間(図の斜線部)が下巻をする範囲です。ゲージに当たるまで下巻をしてください。
※ゲージは小箱に付いております。切り取ってご使用ください。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



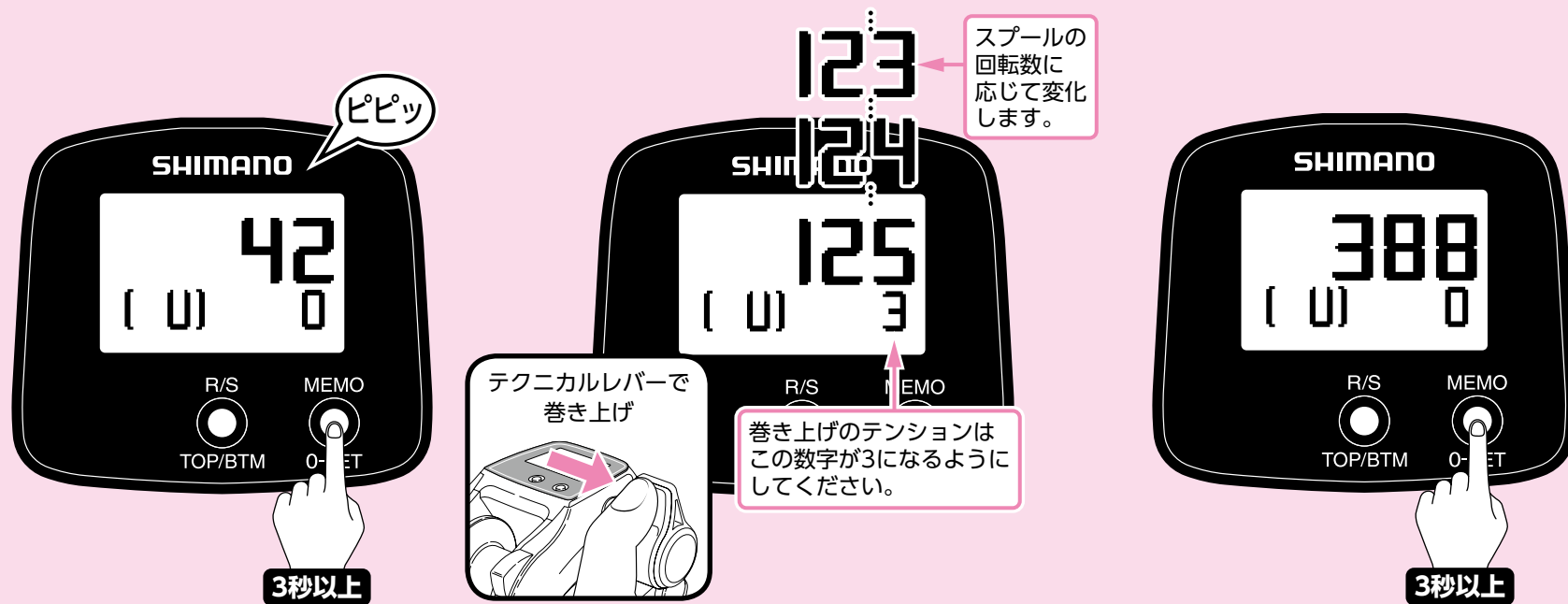
3 MEMO ボタンを 3 秒以上押してください。

4 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
巻き終えた下巻糸に上巻用の糸を結びます。

5 上巻糸を正確に 10m 分巻き取ります。
スプールの回転数に比例した数字が表示されます。

次ページにつづく

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



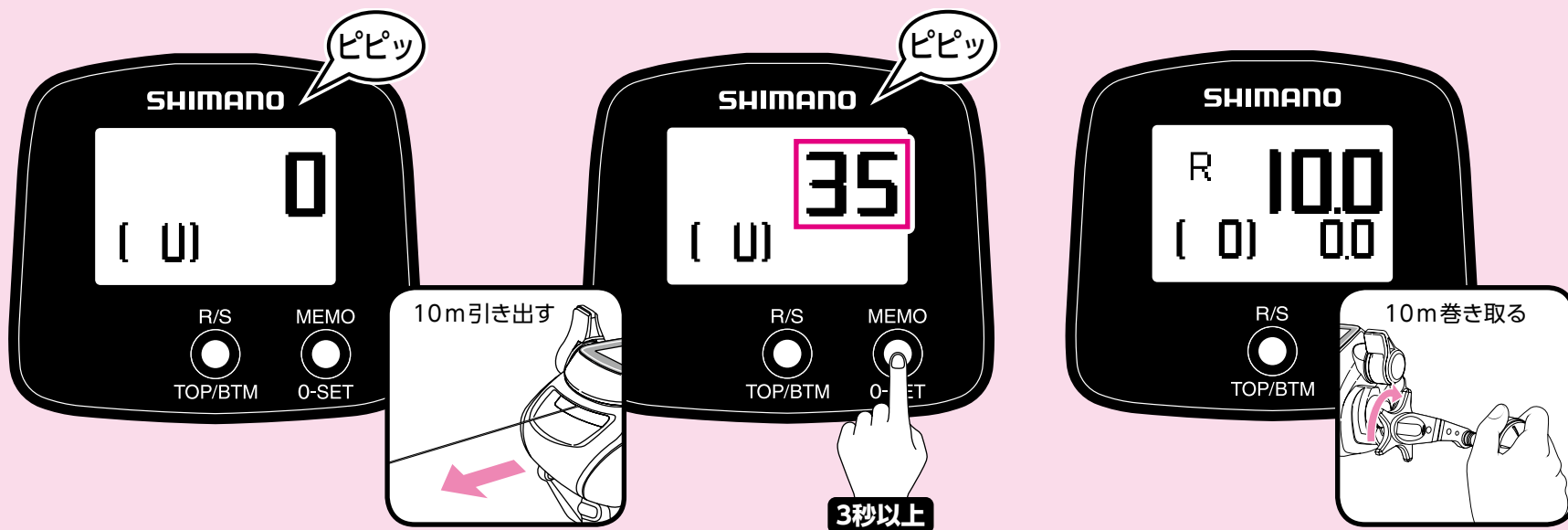
6 MEMO ボタンを 3 秒以上押してください。「pip-pip」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。

7 残りの上巻糸を巻き上げます。テクニカルレバーで糸を巻いてください。巻き上げのテンションは、画面右下の数字が 3 になるようにしてください。テクニカルレバーでの巻き上げの場合、速度はテクニカルレバーで調節できます。巻き上げを止めるときは、テクニカルレバーを「OFF」の位置にしてください。

8 糸を完全に巻き終えたら学習を終了するため、MEMO ボタンを 3 秒以上押してください。

ご注意：糸を全部巻き込まないようにしてください。巻き込みますと、カウンター誤差の原因になります。

注意：カウンター内の数値は例として表示しています。実際に巻かれる場合と同じ数値を示すわけではありません。



- 9** 「ピピッ」のアラームが鳴り、表示は図のようになります。
糸を正確に10m分引き出します。(糸の10mごとの色の変化、もしくは1mごとのマーカーの数で確認します。)

- 10** スプールの回転数に比例した数字が画面右上に表示されます。(□部分)
学習を終了するため、MEMO ボタンを3秒以上押してください。
「ピピッ」のアラームが鳴ります。
※各入力途中でR/S ボタンを誤って押してしまった場合、途中のデータはキャンセルとなります。糸を取り出してもう一度**1**からやり直してください。

- 11** 表示が標準モードに戻り、学習は完了です。
(カウンターの数値と実際の糸の出た長さとは最大で±3%の誤差が生じる場合があります。)
※誤差とは、学習後1投目の誤差です。
- 12** 引き出した10m分の糸を巻き取ってください。

糸巻学習後の手順 (早く、有効に使いこなすために…)



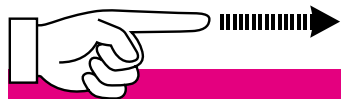
かんたん手順

これさえ知っていれば
とにかく使えます。



べんり手順

簡単で、とっても
便利です。

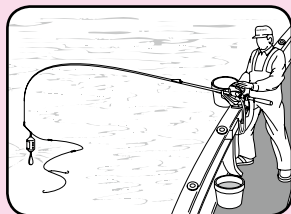


もっともっと べんり手順

知れば知るほどあなたの
釣りの世界が広がります。



0セット

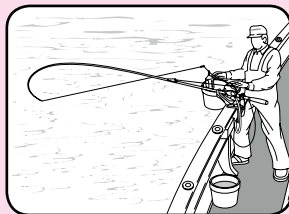


ボタンひとつでシカケが水面にあるとき0mになるよう設定。
狙った水深に正確にシカケを投入できます。

詳しくはP29～30へ!!



船べり 自動停止

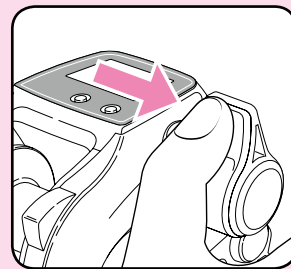


竿を立てるとシカケが手元にピタリともどる、船べり自動停止機能は手返しに差がつきます。

詳しくはP32～33へ!!



テクニカル レバー

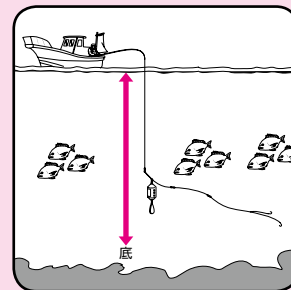


エサの付けかえをするとき、あるいはアタリがあれば、テクニカルレバーでらくらく巻き上げ。

詳しくはP12・39へ!!



棚メモ



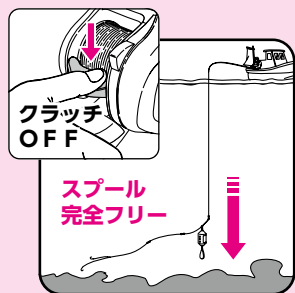
棚または底の水深をメモリーしてメモ欄に表示しておけます。底からモード時はメモ位置からの差をメモ欄に表示します。

詳しくはP34～35へ!!





スーパーフリースプール

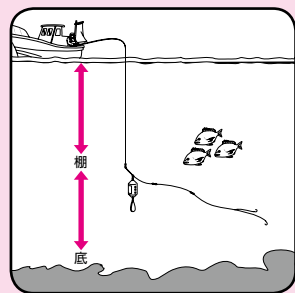


クラッチをOFFにするとスプールが完全フリーとなり、軽いオモリでの底取りも簡単になります。

詳しくはP13へ!!



上から・底からモード切替え



釣場、釣り方、対象魚など場合に依りて底からの水深を確認したい場合、メモ水深の表示方法を切り替えできます。上からモード時はメモ水深を表示していますが、底からモードを選択するとメモ位置からの差を表示します。

詳しくはP36～38へ!!



楽楽・速度一定モード切替え

ラインテンション一定の楽楽モード



スプール回転一定の速度一定モード

巻き上げパワーが一定の「楽楽モード」と、巻き上げスピードが一定の「速度一定モード」の切り替えで状況に応じた巻き上げが可能です。

詳しくはP39～40へ!!



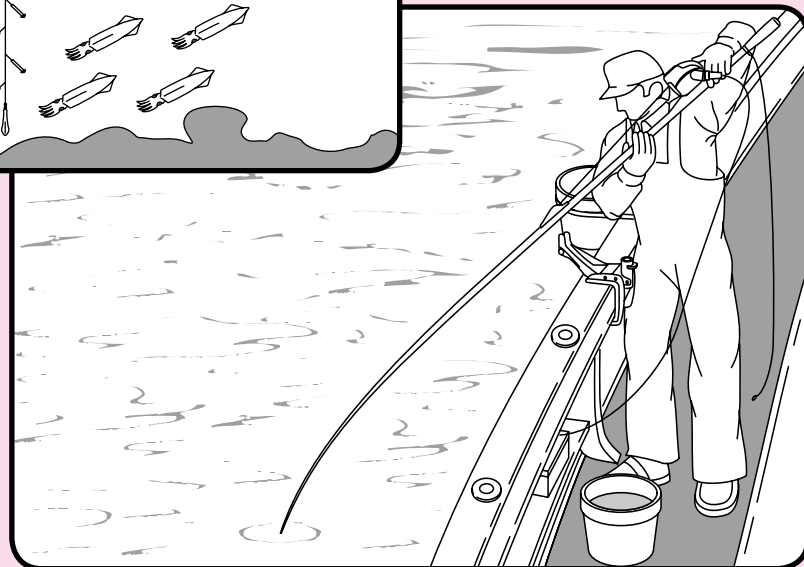
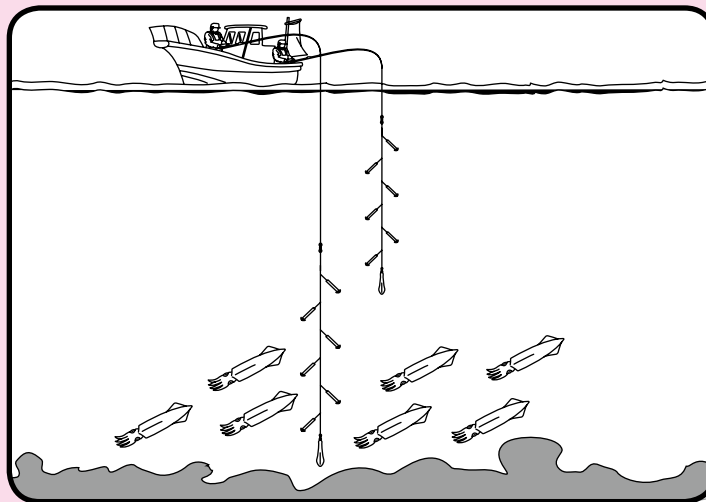
応用

シカケを速く落すテクニック。

- 一般的にはメカニカルブレーキノブを締めて、スプールのフリー回転を少し重くし、船の上下動による糸のバックラッシュを防ぎます。
- しかし、より速くシカケを落とすためにはメカニカルブレーキノブを締めずに、自分の指でスプールをサミングしてください。
- 竿先を下に向け、竿全体を立てることで、ガイドの抵抗を少なくすることができます。(右図)

※スーパーフリースプールを採用しておりますので、モーターを強制的に回しての「糸送り」機能は搭載しておりません。

※シカケ落下中に、モーターが ON になっている状態でクラッチを ON にしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターが OFF になっている事をご確認の上、クラッチを ON にしてください。



0 (ゼロ) セットの設定 (釣りを始める前に必ず行なってください。)



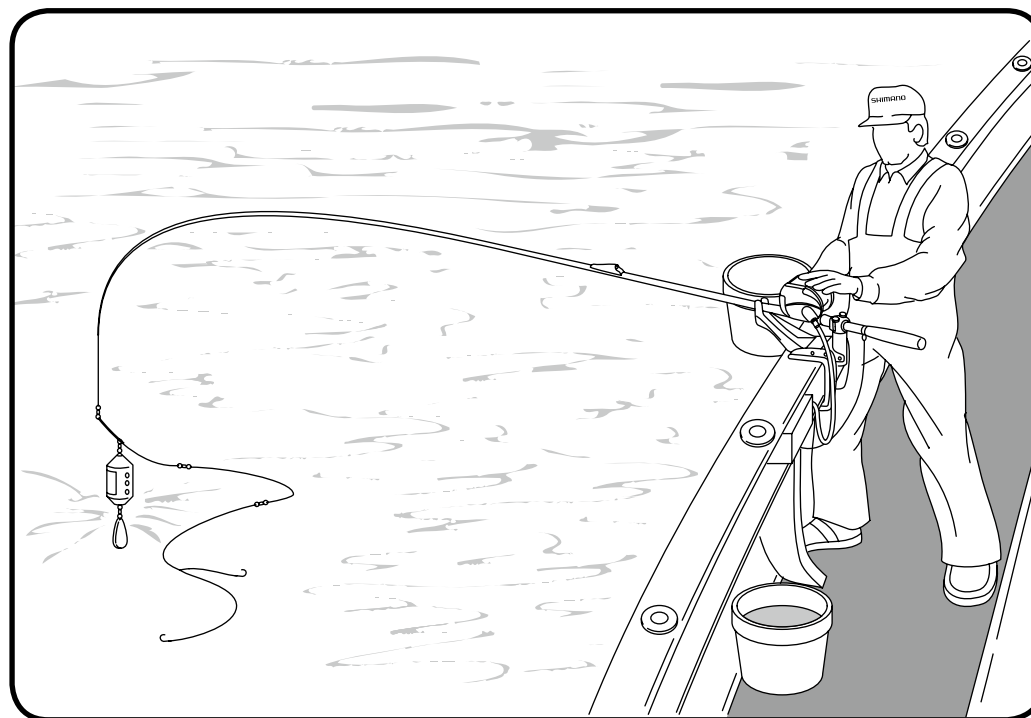
正確な棚取りを実現するために。

釣果アップには、正確な棚取りが不可欠です。そこで「0セット」を設定します。

「0セット」とは、シカケが水面にある時を0mとして設定することです。

「0セット」によって、シカケの位置が水深を示すようになり、正確な棚取りを可能にします。

※糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。



シカケが水面にある時を0mとして設定します。

0 セットを試してみましょう。



1 シカケを水面に合わせ、0SET ボタンを3秒以上押して下さい。

2 「ピピッ」のアラームが鳴り、上図のように表示が変わります。
これで0セットは完了です。

⚠️ ご注意！

糸を巻き込み過ぎた状態での0セットは、糸巻学習が不正確になる原因となりますのでおやめください。

高切れの補正



高切れした場合も、簡単操作で補正が可能です。



1 シカケを結びなおし、水面にシカケを合わせて、OSET ボタンを 3 秒以上押します。

2 上図のように表示が変わります。これで、コンピュータが自動的に高切れした位置からの実測値表示にプログラムを変更します。

⚠️ ご注意！
高切れをした場合、道糸を巻き込んでしまってから高切れ補正を行うと、糸巻学習が不正確になります。道糸の巻き込みには十分ご注意ください。

S A-RB について



**シールドタイプ S A-RB で
さらなるスプールフリーを実現！**

従来のA-RB（アンチラストベアリング）の側面に防錆素材でシーリングし、塩分の浸入を減少させたシールドタイプ S A-RBを適材適所に配置したことにより、シカケ落下時のスプールフリーが更に軽くなりました。それによってヤリイカでのシカケ落下性能も飛躍的にUP、また電動リールでは困難と言われた完全フカセも攻略。また、完全フカセでよく言われるレベルワインド部分での糸ガラミを完全にシャットアウトする、セーフティーバーとレベルワインドのベストバランスを実現させました。A-RB処理によるベアリングの防錆性はもちろん、ベアリング内部に浸入した塩分の結晶化による"塩噛み"をも減少させ、ソルトウォーターでの使用をさらに快適なものにしています。

シールドタイプ S A-RB 5個内蔵

S A-RB

船べり自動停止について



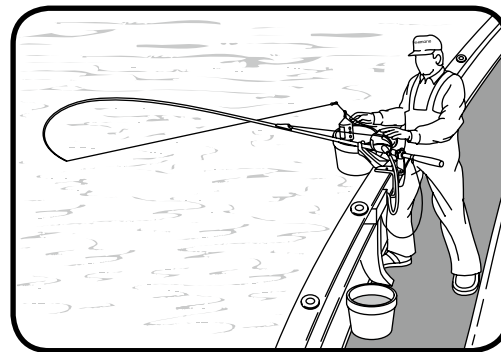
**電動巻き上げ停止後、
竿を立てればシカケが
手元にもどります。**

船べり停止後、竿を立てたときにシカケが手元にくるように自動的に設定されます。

※電源を入れた初回投入時のみ6mで船べり停止します。

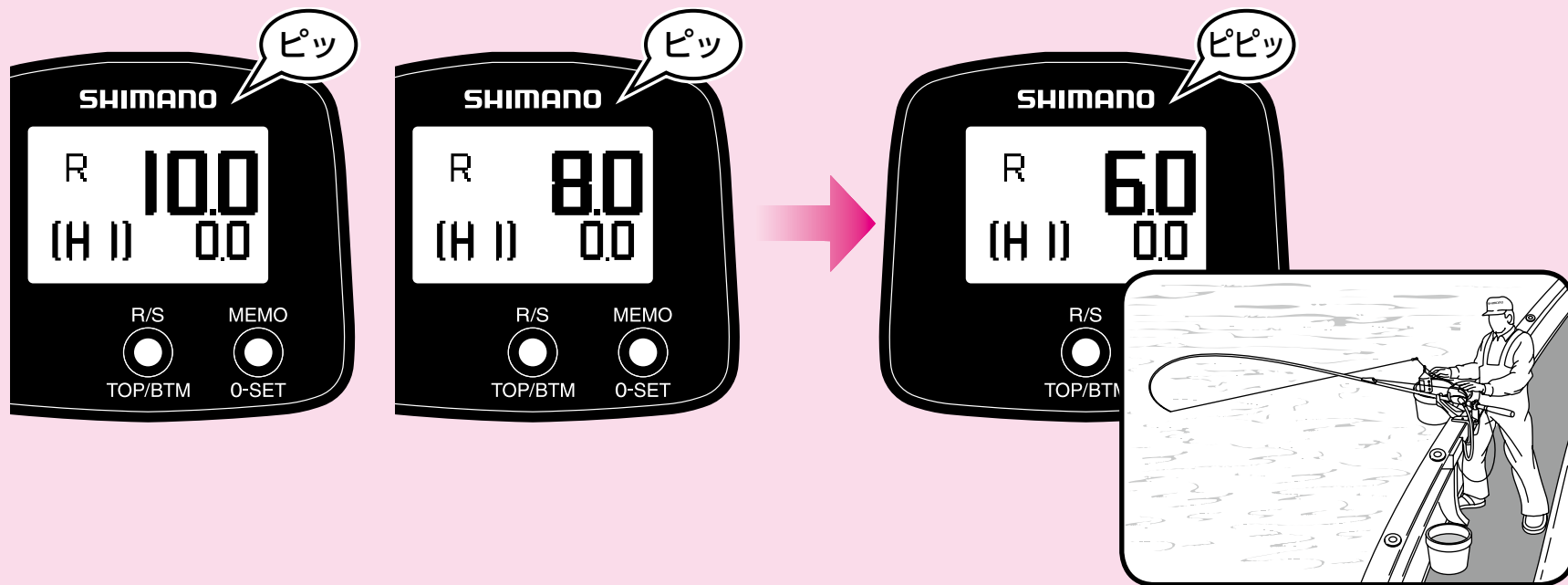
2回目以降は5秒以上止めていた位置を次回の船べり停止位置として、コンピュータが自動的に記憶します。

（この機能は1m～6mの範囲で作動します。水深表示が1.0m未満の時は、安全のため1mの設定になります。）



アラーム (船ベリ)

船ベリ自動停止位置の4m手前からアラームでお知らせします。



- 1 セットされている船ベリ自動停止位置の4m手前から、2mごとにアラームでお知らせします。
図はテクニカルレバーのHIで巻き上げた場合の表示です。

- 2 船ベリ自動停止位置 (この場合は6.0m) で「ピピッ」のアラームが鳴り、自動的に巻き上げを停止します。
船ベリ停止後、竿を立てるだけで手元にシカケがくるので、すばやく上図のようにとりこむことができます。

棚または底の水深をメモリーする方法

88.8

棚メモ

水深をメモリーするには…



シカケをメモリーしたい水深に合わせ、MEMO(メモ)ボタンを押します。

メモリーした水深がメモ欄に表示されます。(□部分)
上図の場合ですと 50.0m の水深がメモリーされます。(上からモード選択時)

※このセットは何回でも入れ換えが可能です。

次ページにつづく



棚アラーム

メモリーした水深の 4m 手前から「棚アラーム」でお知らせします。



1 シカケをおろす方向のみ、セットされているメモ水深の 4m 手前から、2m ごとにアラームでお知らせします。

2 メモ水深（この場合は 50.0m）で「ピピッ」のアラームが鳴ります。1 回の上げ下ろしにつきアラームは 1 回のみです。いったん 6.0m 未満まで巻き上げたり、0 セットを行ったりした場合、再度アラームがメモ水深をお知らせします。

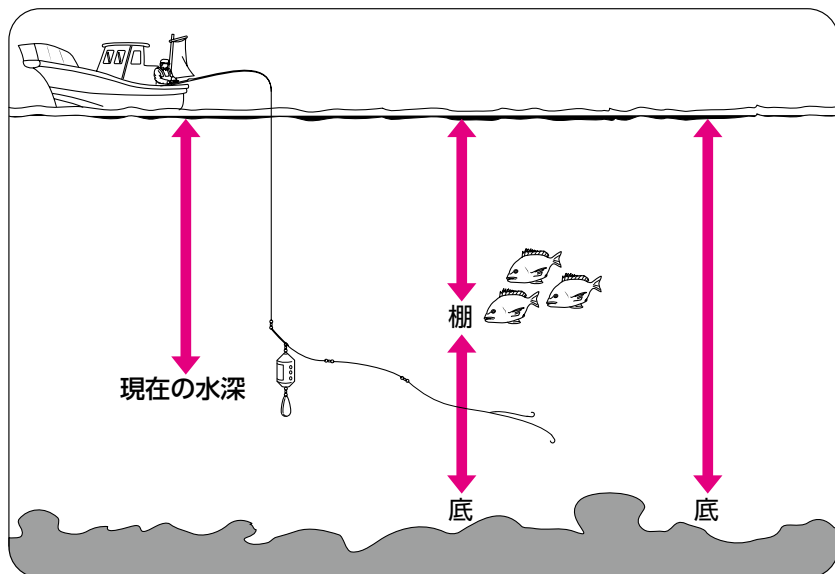
2通りの棚の取り方・上からモードと底からモード



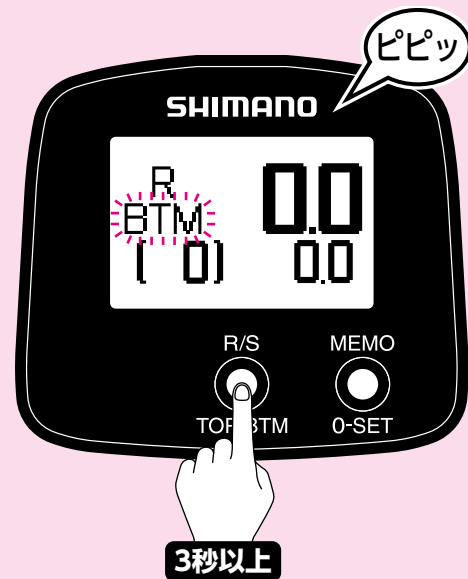
棚取りに便利な「上からモード」と「底からモード」。

船釣りで釣果を上げるコツは、いかに正確に魚のいる水深（すなわち棚）にシカケを降ろすかということです。最近では高性能の魚群探知機により、魚のいる水深が正確にわかります。通常、船長がこの棚を教えてください。この場合釣場、釣り方、対象魚などによって水面から棚が指示される場合と、

海底すなわち底から棚が指示される場合の二通りがあります。この電動リールは、上から棚をとるのに便利な「上からモード」と底から棚をとるのに便利な「底からモード」の2つのモードを備えています。その日の釣りに合わせて、切り替えてご使用ください。



モードを切り替えるには…



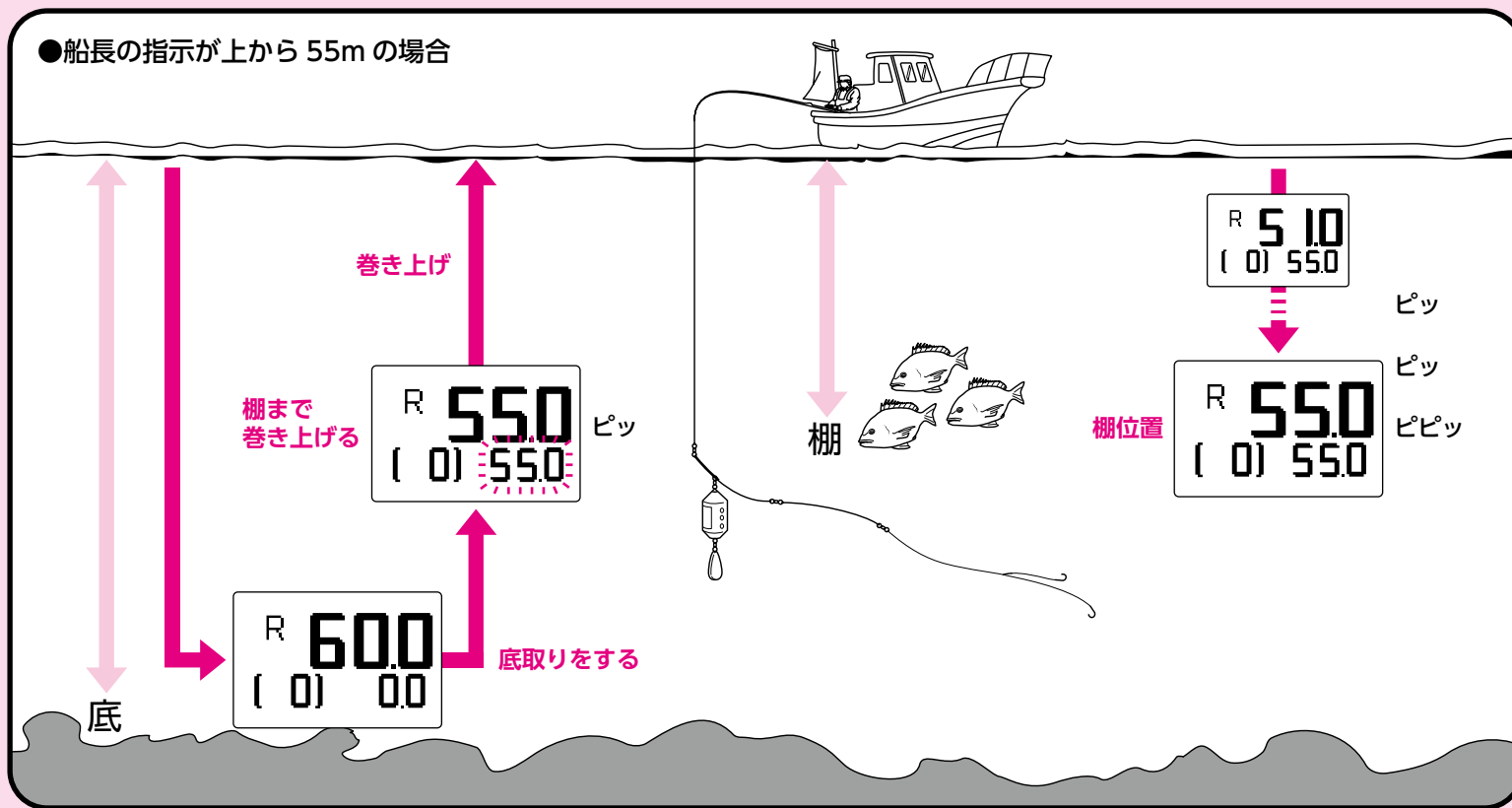
電源を入れたときは上からモードになっています。

モードを変更したいときは、モーターが停止した状態で標準モードの時に、TOP/BTM ボタンを3秒以上押してください。

「BTM」が表示され、底からモードに変更されます。上からモードに戻りたいときは、同様の操作を行ってください。

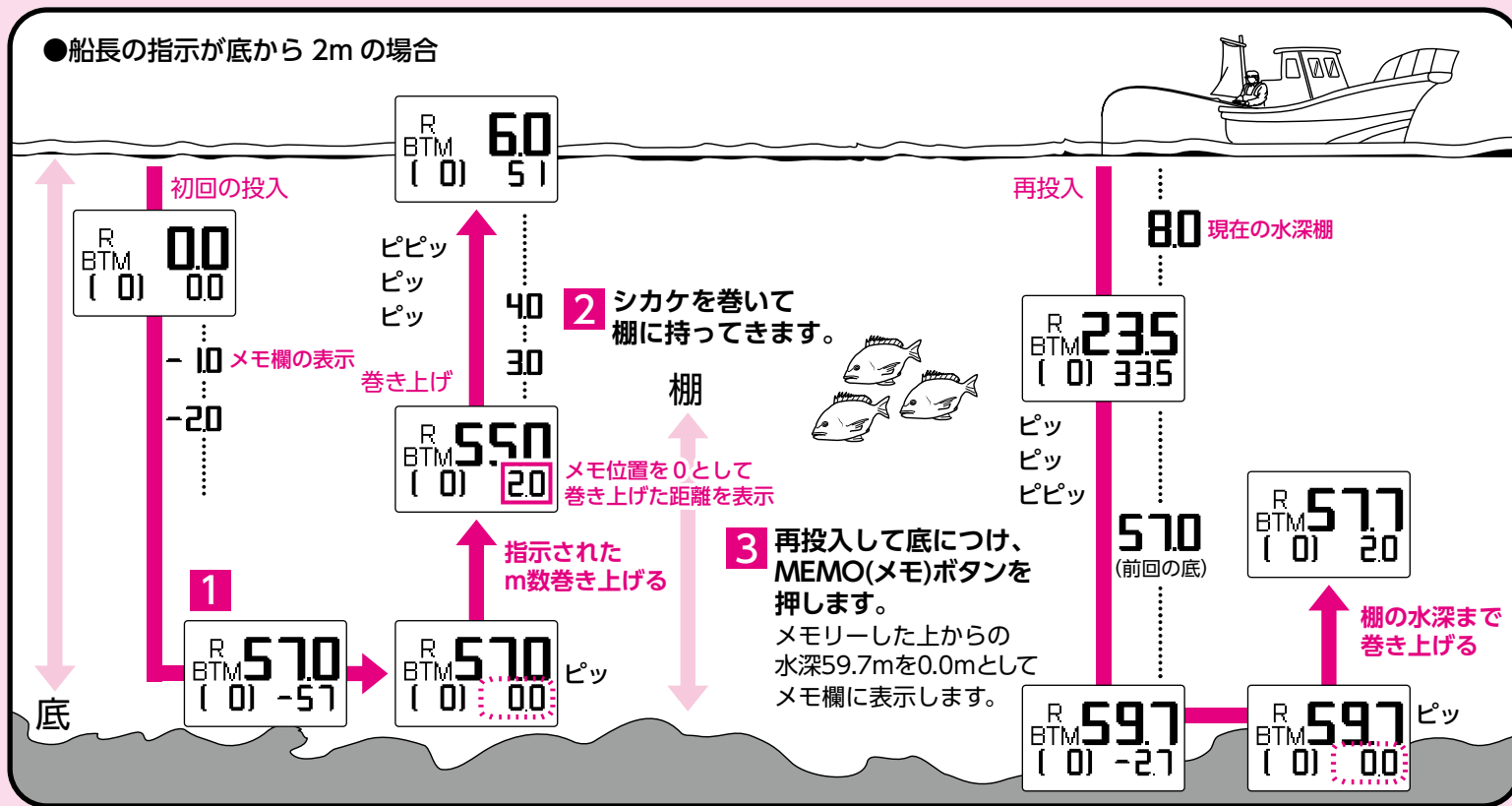
モーター作動中の操作は無効となります。

上からモードの実釣編



- 1 シカケをいったん底につけます。
- 2 シカケを巻いて棚に持ってきます。MEMO ボタンを押して棚をメモリーします。以上は底取りをして底の水深を知りたい場合ですが、直接指示の水深にシカケを投入しメモボタンで棚をメモリーすることも可能です。
- 3 再度投入した際「棚アラーム」によって、シカケがメモリーした水深にきたことを知らせてくれます。

底からモードの実釣編



解説!

船長の指示が「底から何 m」といった場合、釣り人はシカケをいったん底まで降ろして指示された m 数だけシカケを上げます。(通常この時にコマセを振ります。)

2通りの巻き上げ方・楽楽モードと速度一定モード



1 楽楽モードと速度一定モードの切り替え方法

- 電源を入れた際には楽楽モードで起動します。
R/S ボタンを押すことにより、速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。(右図)
巻き上げ中の操作も可能です。
現在のモードがデジタルカウンターに表示されます。
楽楽モード：バックライト「緑」(「R」点灯)
速度一定モード：バックライト「赤」(「S」点灯)

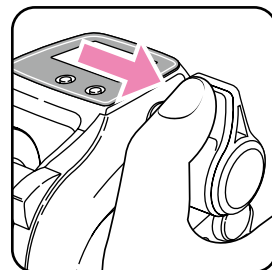
2 速度一定モードとは？

巻き上げてくる対象物の大きさ、つまりリールにかかる負荷の大きさに関係なく、常に設定された速度*を保つようにモーターのパワーを自動的に調整して、一定の速度で巻き上げます。
(*速度→電動リールのスプール回転速度)

ご注意：設定値 1～4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。
オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。



- ◎テクニカルレバー設定表示
テクニカルレバーの操作時に巻き上げパワーまたはスピードを表示します。

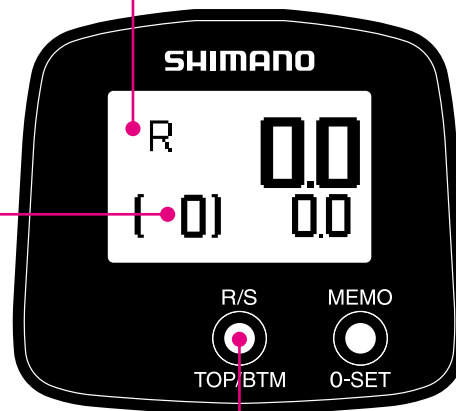


■テクニカルレバー

巻き上げパワーまたはスピードを瞬時に調整することができます。

◎現在のモード

楽楽モード：バックライト「緑」(「R」点灯)
速度一定モード：バックライト「赤」(「S」点灯)



■R/S(楽・速)ボタン

速度一定モードと楽楽モードの切り替えができます。巻き上げ中の操作も可能です。

次ページにつづく

3 楽楽モードとは？

「楽楽モード」は、設定した巻き上げパワーを一定に保とうとする機能です。つまりラインにかかるテンション（負荷）をリールが感知して、モーターの回転速度を自動的に変化させ、常に一定のテンションを保って巻き上げます。

つまり

●モーターと魚の瞬間的な引っ張り合いを避けてくれる。	●波が荒くて竿の操作では追いつかないときにも便利。
●魚が突っ込んだり、船が急に持ち上がったときの急なテンションの上昇に応じて、モータースピードが遅くなって調節してくれる。	●ポンピングで竿をおろしたときなど、急なテンションの降下に応じてモータースピードが速くなって、シカケにたるみができない。
これなら楽だし、手巻き感覚で安心です！	

※工場出荷の初期設定は「楽楽モード」となっております。

さらにこんなメリットも…

- テンション設定はレバー操作で瞬時に調整可能です。
- 電動と魚の瞬間的な引っ張り合いがなくなることによって、シカケ本来の強度が得られます。

ご注意：設定値 1～4 は非常に遅いデッドスローに設定しております。オモリの負荷等により巻き上げが止まってしまうことがありますので、その場合は設定値を上げてください。

お取り扱い上の注意

本製品は精密部品で構成されていますので、下記注意事項を守ってお取り扱いください。また、釣行後の手入れを十分行ない、末永くご使用ください。

1 リールのお手入れ方法

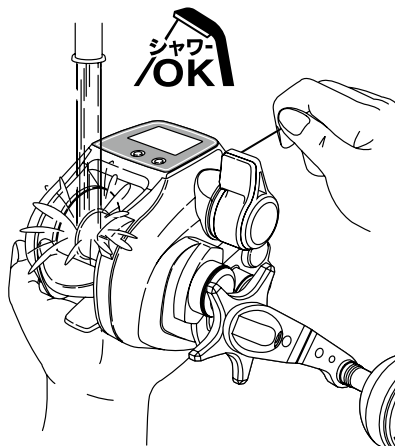
※お手入れの際には必ずケーブルを抜いて、リールを完全に冷ましてから行ってください。

1. まずドラグをしっかり締め込んでください。
2. 水道水をリールにかけながら、リール外側の汚れをスポンジで落とします。
※水中に浸けて洗わないでください。
3. スプールと本体の間に水をかけながらクラッチを切って道糸を2～3m 出します(図参照) これによりスプール軸受け部に付着した塩分を洗い流せます。
4. ドラグを目一杯ゆるめ、影干ししてよく乾燥させてください。

※ケーブルのワニ口部分には海水中の不純物が付着している場合がありますので、必ず真水で洗い流すか軽くブラッシングしてください。

※ベアリングの塩カミについて

S A-RB (シールド耐塩水ベアリング) はベアリング本体、シールドともに錆びにくい物になっています。しかしシールドはベアリング内部に塩水が浸入して発生する『塩噛み』を完全に防ぐものではありません。ベアリング内部に塩水が浸入して乾燥すると、塩噛みを起こす場合があります。錆びている訳ではありません

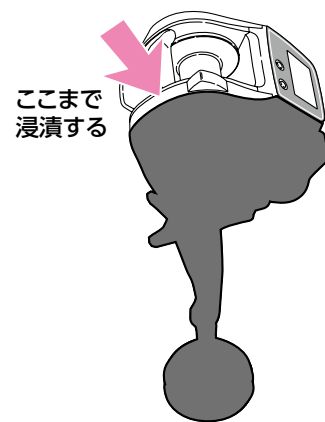


2 リールのお手入れ方法 (スプール回転性能に低下が見受けられた場合)

- 通常のお手入れ方法にて、スプール回転がスムーズでないと感じられた場合(リールのハンドル側ベアリングの塩カミによる場合)

※ケーブルは必ず抜いた状態で行ってください。

1. リールのハンドル側のスプールと本体の間までリールを浸水させて(右図参照・リール全体を浸水させないでください。) スプールを回転させますと、ベアリングに噛み込んでいる塩が抜けて回転性能がUPします。



2. リールを水から引き上げてリールのコネクター側を下にして、水を排水してください。(リール内部に溜まった水を完全に排水させます。)

上記を行っても改善が見られない場合はオーバーホールに出してください。

3 ご使用上の注意

- 電動リールの構造上、モーターが ON で、糸が巻き込めない状態（魚が掛かりドラッグがすべっている状態）になることがありますが、これは車に例えるならサイドブレーキを掛けたまま走ることと同じです。電動リールもこの状態を長く続けると、ドラッグ部分のオイル焼け→ドラッグ焼け→本体の破損へとつながります。くれぐれもご注意の上で使用ください。
- 根掛かりした時には、竿やリールで無理にあおらないで、できるだけ釣場に糸の残らないように引き寄せて切ってください。
- リールはていねいに扱ってください。移動時、特に放り投げやバッグ内で他の道具との接触による破損には十分ご注意下さい。
- リールは落としたり衝撃を与えないよう、丁寧に扱ってください。
- 船の竿立てに収められる時は、リール後部及びケーブルに衝撃を与えないよう、また、ケーブルを折り曲げないようご注意下さい。特にケーブルをリールと船べりの間にはさまないようご注意下さい。
- 偏光ガラスの種類によってカウンター液晶画面が見にくくなる場合があります。
- 高負荷巻き上げ後に仕掛け投入して巻き上げる時は注意してください。仕掛けが穂先に巻き込む可能性があります。
- 樹脂脚を採用しているリールにおきましては、金属製リールシートでご使用されますと傷が入り、最終的に破損に至る場合がございます。パイプシート内部にリール脚保護用樹脂が装着されているかどうかご確認の上、ご使用下さい。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにつきましては、モーターが ON になっている状態でクラッチを ON にしますと、クラッチの故障の原因になります。必ずモーターが OFF になっていることをご確認の上、クラッチを ON にしてください。
- スーパーフリースプールを採用しているリールにつきましては、クラッチを OFF にして糸を出す時は、レベルウィンドは連動しません。ドラッグが滑っている時は、レベルウィンドがスプールと同期しない場合があります。

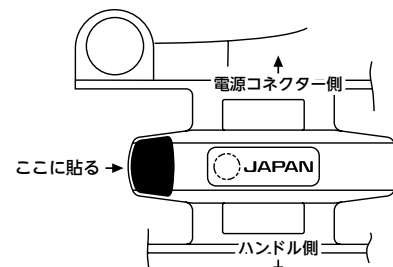
- 糸巻き形状について多少の凹凸がありますが、ご使用上何ら支障はございません。（右図はイメージです。）



● 「脚調整シート」のご使用方法

ご使用になるロッドのリールシートの形状によりましては、リールがしっかりと固定されずガタが出る場合があります。このような場合、同梱の「脚調整シート」をご利用ください。

1. リールの脚裏に挿絵の様に片側だけ（リールシートのネジフードに入り込む側）に貼っていただき、ガタが止まったかどうか確認してください。



2. 1を行ってもガタが止まらない場合は、もう片方の脚裏にもシートを貼ってください。その際、リールシートとの掛かり代が十分であるかご確認ください。3mm以上リールシート内に入り込んでいればOKです。
3. 2の様に両方に貼ってもガタが止まらない場合は、規格外となりますのでご使用をお止めください。

※ご注意

リール脚裏の両方に貼ってしまうと、リールシートとの掛かり代が少なくなり、最悪の場合、リールが外れてしまう場合があります。

4 お手入れの方法

●定期メンテナンス - 弊社サービスへご依頼下さい。

リールの状態は、使用頻度のみならず、使用環境、使用方法、対象魚等によって大きく変わります。回転時の異音、違和感を感じられたら、最寄りの販売店を通じて直ぐさま弊社サービスへ、そうでなくとも半年に1度はお預けいただくことをおすすめいたします。

●保管の際は必ずリールからケーブルを外して保管してください。

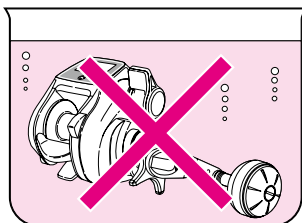
●リールを使用にならない時はコネクターキャップをしてください。

●リールは絶対に分解しないでください。内部にはモーター、ブレーカーなどの電気部品が入っていますので故障の原因となります。

●ドラッグ部分には絶対オイルを付けないでください。オイルが入るとドラッグ力が低下することがあります。

●高温、高湿の状態では長時間放置されますと、変形や強度劣化の恐れがあります。長期保存される場合は、前記の手入れを実施後、風通しの良い場所で保存してください。

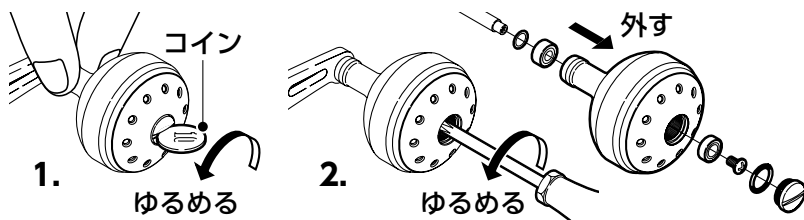
●リール本体、特にカウンターユニット部は、水没させないでください。 (カウンターユニットは日常生活防水仕様ですがトラブルを防止するため、水没させないでください。)



●ハンドルノブの取り外し方

1. ノブを手で押さえながら、コインでハンドルノブキャップをゆるめて取り外します。

2. ドライバーでノブ内部のボルトをゆるめて外します。



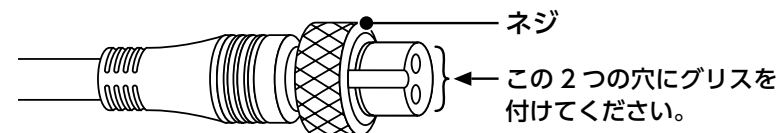
●お手持ちのリールを末永くご愛用いただけるよう、シマノリール専用グリス(下記)を使用してください。

〔図1〕、〔図2〕の箇所に付けていただくようお願いします。

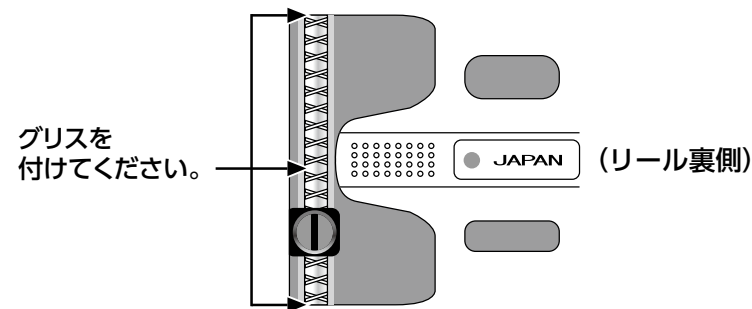
シマノ純正リールグリススプレー (SP-023A)

〔図1〕 ケーブルの端子の2つの穴

リール本体側のケーブルの端子にも塗布していただくと、より効果的です。



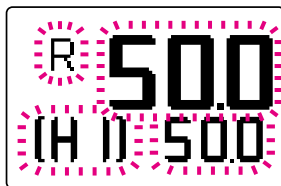
〔図2〕 ウォームシャフトとウォームシャフト両側



5 セーフティ機能

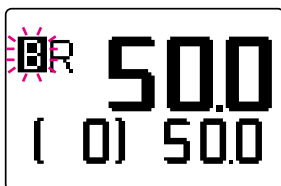
●自動復帰ブレーカー

電動リールに過負荷がかかった場合、リールを保護するため1秒間隔でモーターがON/OFFとなりますが、異常ではありません。その状態を続けると最終的には自動復帰ブレーカーが作動し、右図のように全表示が点滅します。作動した際は、モーター保護のためモーターをON・OFFせずに5分以上休ませてください。(この際、ハンドルで糸を巻いたり、クラッチを切って糸を出したりしても糸巻学習は保持され、カウンターは正常に働きます。) 点滅が点灯になればブレーカーは復帰です。



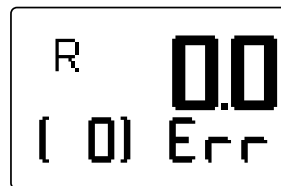
●バッテリー検出表示

バッテリー電圧が10.5V (リチウムイオンバッテリーは13.5V) 以下になった場合、またはケーブル・コネクターの接続不良がおこると、バッテリーマークが点灯します。バッテリーマークが点灯しましたら、ケーブル・コネクターの接続不良がないかをお確かめください。接続不良ではない場合、バッテリー残量が少ないことが考えられます。



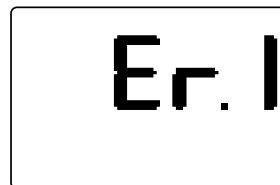
●テクニカルレバー断線の場合

右記のエラーメッセージが出ましたら「製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内」ページを参照していただき、修理に出してください。



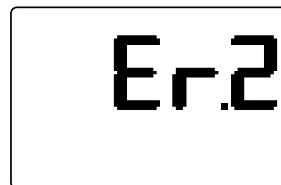
※下記のErr表示の際には糸を出したり巻いたりしないでください。糸巻学習が不正確になります。

●電圧が高すぎる場合



DC28V以上の電圧がかかると上図のように表示されます。ご使用の電源が12V～14.8V仕様かどうかをお確かめください。

●糸巻学習操作が不正確な場合



糸巻学習操作が不正確な場合の表示です。お手数ですが、再度学習をおこなってください。

6仕様

シマノ巻上力

15kg

シマノ独自の基準から算出した最大パワーによる参考値です。

実用巻上持久力

3.0kg

長時間耐久維持できる巻き上げ力

実用巻上持久力とは負荷をどんどん増やしていった際に、最終的に電動リールのブレーカーが作動したときの負荷を表示したものです。

最大ドラッグ力

5.0kg

シマノの船リールで表示している最大ドラッグ力は、人間が片手で締め込める力を25kg・cmとし、そのときのドラッグ力を最大ドラッグ力と表現しています。

最大巻上速度

155m/分

無負荷時の巻き上げ速度の値です。

実用巻上速度

1kg (負荷)	2kg (負荷)	3kg (負荷)
109m/分	95m/分	72m/分

水深100mのシカケ回収に要する時間

実用巻上速度とは、たとえば600番のリールならPE3号糸を200m巻いた上で100m引き出し、指定の負荷を掛けてMAXで巻き上げます。

その時にかかった時間を速度に変換した値です。

測定条件：◎電源は13V◎常温15～20℃（リチウム等高電圧の電源を使用されますと、さらにハイスピードになります。）※データは使用環境条件等で若干変動する場合があります。

品番	ギア比	自重 (g)	糸巻量(号-m) PE [タナトル]	糸巻量(号-m) フロロ	最大巻上長 (cm/ハンドル 1回転)	スプール寸法 (径mm/ 幅mm)	ハンドル長 (mm)	ベアリング数 (ボール/ローラー)
600	5.5	470	2-300 3-200 4-150	3-200 4-150	59	34/25	65	5/1

●標準付属品

ケーブル1本、取扱説明書、分解図、糸通しピン、保証書、下巻きゲージ（リール小箱に印刷されていますので、切り取ってご使用ください）、脚調整シート

●電源（直流） DC 12V（リチウムイオンバッテリー可）

●夢屋パーツ取り付け可能

ハンドル				ハンドルノブ
BH-2	BH-3	BH-4	BH-5	B

●ご注意 PE2号以下を使用される場合は糸を巻きすぎたり、バックラッシュ等をしますと糸が細いため、スプールとフレームのすき間に入り込んでしまう場合がありますので注意して下さい。

故障かな?と思われたときは

7 故障かな?と思われたときは

こんなとき	操作	参照
液晶が真っ黒、及び全文字が現れる。	高温度の雰囲気（車のトランクの中）にさらされた時に生じる場合がありますが温度が下がるにしたがって正常にもどります。	
液晶が表示しない。	バッテリーとケーブルの (+) (-) とが正しく接続されているかをお確かめください。 バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。 ケーブルのフニ口部分に不純物が付着していないかご確認ください。	P.14
液晶が表示しない。 (極寒で使用の場合)	液晶の特性上-15℃以下で放置されますと、電源をつないでもしばらくの間表示しません。 (電源が ON の状態になり、カウンター内部の基板が温まれば表示されます。) 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうかカバーを付け、保護することをおすすめします。	
糸巻学習がセットされない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15~P.25
ラインを送り出してもカウントしない。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15~P.25
誤差が大きい。	お手数ですが再度学習の上、ご確認ください。	P.15~P.25
カウンター表示と、糸の水深色分けとが一致しない。	糸の種類により、程度の差はありますが、使用中に糸が伸びることによりカウンターの表示との間にズレを生じる場合があります。	
船べり停止位置が違う。	巻き上げのテンションや糸の伸びの影響と思われる。水面での 0 セットを行なってください。 また、入力可能な船べりセットは、1m~6m 未満の範囲です。 0m~1m 未満のセットは安全のため 1m に設定しています。	P.29~P.30 P.32
液晶表示はするが モーターが作動しない。	バッテリーの容量が十分かどうかご確認ください。 ※モーターが低速では作動するが、高速では作動しない場合もバッテリーの容量不足が考えられます。 バッテリーを充電のうえ、ご確認ください。なお、充電しても正常に作動しない時は、バッテリー寿命が考えられますので、新しいバッテリーと交換し、再度ご確認ください。 リールが低温 (0℃以下) になりますと、モーターが作動しなくなる場合があります。 極寒で使用される場合、船がポイントに着くまでは電動リールをキャビンに入れてもらうか、電源 ON しておいてください。また、カウンター 1m 以内では安全のためモーターは作動しません。	P.14 P.12

製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

こんなとき	操作	参照
巻き上げ中にモーターが停止する。	電源コネクターのネジがしっかりと締め付けられているかご確認ください。船電源の端子や、リールやケーブルのコネクター部分がサビしていると、通電不良を生じます。サビを落としてからもう一度ご確認ください。また、バッテリー容量が不足していないか、ご確認ください。	P.14
電動リールから、巻いていないのに変な音がする。	不安定な電源から電動リールを守る為に、デジタルカウンター内部にコンデンサーを入れております。ご使用されています電源が不安定な状況下（ノイズ等や電圧降下）では、このコンデンサーが振動し音が聞こえる場合がありますが、リール機能には一切支障はございませんので安心してご使用ください。	
カウンターにErrの文字が表示される。	セーフティ機能に基づくエラーメッセージです。「セーフティ機能」のページをご確認ください。	P.45
電源投入時に英数字が2秒間表示される。	識別のための表示で、故障ではございません。表示内容は機種ごとに異なります。	

釣りを楽しく行っていただくために、釣行前には必ず電源を入れて電動リールが正常に作動することをご確認くださいませお願いいたします。

(1.1m以上糸が出た状態にならないとモーターは作動しません。)

以上の確認を行っても直らない場合は、お手数ですがお買い上げになった販売店にお預けください。その際に故障内容をできるだけ詳しくお伝えください。

8 製品のお問い合わせ・アフターサービスのご案内

リールのメカニズムの説明には書面で表しにくいことがあります。手紙での問い合わせにつきましては、必ずお客様の電話番号をお書き添えくださるようお願いいたします。

- 修理に出されるときには保証書と製品、ケーブルをお持ちになり、お買い上げの販売店へ現品をお預け願います。

その際には必ず、修理箇所、不具合内容を具体的に（例／ストッパーが働かない）お知らせください。

また、お近くにシマノ商品取扱店がない場合は、最寄りの営業所へお問い合わせください。

修理品は部品代のほか工賃をいただきますのでご了承ください。商品の故障等によって生じる他のタックルの破損、紛失、釣行費等は保証できません。

- ご自分で修理をされる場合の部品や替えスプールのお取り寄せは分解図をご覧ください、製品名・商品コードもしくは製品コード・部品番号・部品名をご指定の上、お買い上げの販売店もしくは最寄りの販売店にご注文ください。（内部の部品に関しましては、複雑ですのでリール本体ごと修理に出されることをお勧めします。）

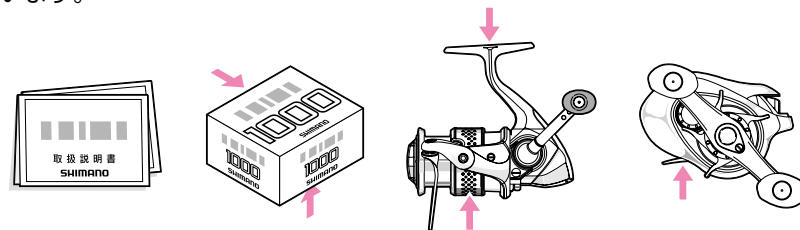
例／製品名：PLAYS 600 商品コード：03999

製品コード：RG540600 部品番号：12 部品名：ハンドル組

- 弊社ではリール、釣竿の補修用性能部品の保有期間を、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性がございます。

- 商品コード / 製品コードの位置

取扱説明書・分解図・パッケージ底面部もしくは側面部に製品コードの上5ケタ及び商品コードを表示しています。又、製品には商品コードを表示しています。



株式会社シマノ全国サービスネット

株式会社シマノ 埼玉営業所

〒362-0043 埼玉県上尾市西宮下3-194-1 TEL.(048)772-6662

株式会社シマノ 東京営業所

〒143-0013 東京都大田区大森南1-17-17 TEL.(03)3744-5656

株式会社シマノ 名古屋営業所

〒454-0012 愛知県名古屋市中川区尾頭橋2-6-21 TEL.(052)331-8666

株式会社シマノ 大阪営業所

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地 TEL.(072)223-3920


株式会社シマノ 中四国営業所

〒700-0941 岡山県岡山市南区青江6-6-18 TEL.(086)264-6100

株式会社シマノ 九州営業所

〒841-0048 佐賀県鳥栖市藤木町4-6 TEL.(0942)83-1515

株式会社シマノ 釣具事業部 本社：〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

●探見丸システム、商品の性能・スペック、カタログ、イベントやアフターサービスなどに関するお問い合わせ
フリーダイヤル  **0120-861130** (ハローイイサオ) をご利用ください。

受付時間：AM9:00～12:00・PM1:00～5:00(土・日・祝日除く)

■シマノホームページ アドレスは <http://www.shimano.com> です。

新製品情報・釣り情報など、フィッシングライフに役立つ、シマノならではのオリジナル情報を発信しています。

また、カタログのお申し込みも受け付けています。

SHIMANO